



(様式第 10)

香大医医第 27 号
令和 3 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人香
学長 笥 善

香川大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号
氏 名	国立大学法人香川大学 学長 笥 善

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

香川大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒761-0793 香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	電話 (087) 898-5111
-----------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	⑥	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5神経内科	⑥血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑩リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	④ ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ ④
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制 常勤の歯科医師を配置している。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 腫瘍内科 2 脳神経内科 3 内分泌・代謝内科 4 血管内科 5 形成外科 6 病理診断科 7 リハビリテーション科 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
26床	0床	0床	0床	587床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	218人	184人	384.8人	看 護 補 助 者	47人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	4人	11人	12.3人	理 学 療 法 士	11人	臨床検査技師	37人
薬 剤 師	37人	3人	40.0人	作 業 療 法 士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	46人	1人	46.7人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	615人	41人	650.9人	臨 床 工 学 士	16人	医療社会事業従事者	5人
准 看 護 師	0人	0人	0.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	25人
歯 科 衛 生 士	3人	0人	3.0人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	44人
管理栄養士	6人	0人	6.0人	診 療 放 射 線 技 師	33人	そ の 他 の 職 員	38人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	40人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	31人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	8人
精 神 科 専 門 医	14人	放 射 線 科 専 門 医	16人
小 児 科 専 門 医	14人	脳 神 経 外 科 専 門 医	11人
皮 膚 科 専 門 医	1人	整 形 外 科 専 門 医	14人
泌 尿 器 科 専 門 医	8人	麻 酔 科 専 門 医	15人
産 婦 人 科 専 門 医	10人	救 急 科 専 門 医	8人
		合 計	201人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (門脇 則光) 任命年月日 令和3年10月1日

平成29年10月1日～令和元年9月30日 (2年0ヶ月) 医療安全管理部長
 平成29年10月1日～令和元年9月30日 (2年0ヶ月) 医療安全管理責任者

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	398.3人	4.1人	402.4人
1日当たり平均外来患者数	891.1人	43.8人	934.9人
1日当たり平均調剤数	1102.4剤		
必要医師数	95人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	14人		
必要(准)看護師数	238人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要												
集中治療室	753.4m ²		<table border="1"> <tr> <td>病床数</td> <td>31床</td> <td>心電計</td> <td>㊦・無</td> </tr> <tr> <td>人工呼吸装置</td> <td>㊦・無</td> <td>心細動除去装置</td> <td>㊦・無</td> </tr> <tr> <td>その他の救急蘇生装置</td> <td>㊦・無</td> <td>ペースメーカー</td> <td>㊦・無</td> </tr> </table>	病床数	31床	心電計	㊦・無	人工呼吸装置	㊦・無	心細動除去装置	㊦・無	その他の救急蘇生装置	㊦・無	ペースメーカー	㊦・無
病床数	31床	心電計	㊦・無												
人工呼吸装置	㊦・無	心細動除去装置	㊦・無												
その他の救急蘇生装置	㊦・無	ペースメーカー	㊦・無												
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 271.2m ² [移動式の場合] 台数 0台		病床数 19床												
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 71.7m ² [共用室の場合] 共用する室名														
化学検査室	93.3m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)・臨床化学自動分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-2000FR) ・生化学検査分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-c16000)												
細菌検査室	161.7m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)・微生物分類同定分析装置 MALDIバイオタイパー(ベックマン・コールター) ・MIC画像処理診断システム (栄研化学 IA20MICmk) ・BDバクテックFX (TOP) (日本ベクトン・ディッキンソン 441385)												
病理検査室	392.0m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)・密閉式自動固定包埋装置 ティッシュテック VIP6 (サクラファインテックジャパン VIP6-J0) ・術中迅速凍結切片作成装置 クリオスタット (サクラファインテックジャパン Polar D) ・自動免疫染色装置 Ventana Benchmark Ultra (ロシュ・ダイアグノスティックス) ・Auto Stainer Link 48 (アジレント・テクノロジー)												

病理解剖室	289.6m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・ラミナーフロー式 感染防止対策型解剖台 (サクラファインテックジャパン KBH-LD2V)	
研究室	79.8m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) なし	
講義室	481.0m ²		室数 2室	収容定員 407人
図書室	1,672.0m ²		室数 7室	蔵書数 137,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	84.9%	逆紹介率	87.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数		9,009人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,134人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		827人
	D: 初診の患者の数		11,580人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
太田 吉夫	香川県病院事業管理者	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	1
植松 浩司	あすか総合法律事務所 弁護士・ 歯科医		法律に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	1
二島 多恵	がん患者会ネットワーク香川 会長		医療を受ける者の代表者	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	2
真鍋 光輝	香川大学副学長		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
公表の方法: 香川大学医学部附属病院ホームページ (http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/iryokansa/)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0人
LDLアフェレシス療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
水素ガス吸入療法 心停止後症候群(院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。)	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	BCR-ABL変異解析	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 慢性骨髄性白血病のBCR-ABL遺伝子変異の解析			
医療技術名	急性リンパ性白血病のBCR-ABL遺伝子変異の解析	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 急性リンパ性白血病のBCR-ABL遺伝子変異の解析			
医療技術名	骨髄微小残存病変量測定/モニタリング	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 骨髄微小残存病変量測定/モニタリング			
医療技術名	JAK2遺伝子変異解析、CALR遺伝子変異解析、MPL遺伝子変異解析	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要 JAK2遺伝子変異解析、CALR遺伝子変異解析、MPL遺伝子変異解析			
医療技術名	PNH血球解析	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 PNH血球解析			
医療技術名	網羅的ウイルスPCR解析	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 網羅的ウイルスPCR解析			
医療技術名	T細胞レパトア解析	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 T細胞レパトア解析			
医療技術名	FLT3遺伝子変異解析	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 FLT3遺伝子変異解析			
医療技術名	FLT3阻害剤血中濃度測定	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 FLT3阻害剤血中濃度測定			
医療技術名	紫外線照射療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 紫外線照射療法			
医療技術名	難治性多発筋炎・皮膚筋炎に対するリツキシマブ療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 多発筋炎・皮膚筋炎の難治例に対する予後改善を目的とする。多発筋炎・皮膚筋炎は多彩な臓器障害を合併し、ステロイドやシクロホスファミドによる免疫抑制療法でも治療抵抗性を示すことがあり、本治療による病態の改善は有用性が高いと考えられる。			
医療技術名	全身性強皮症診断のためのnailfold video capillaroscopy	取扱患者数	約50人
当該医療技術の概要 全身性強皮症の早期診断、予後予測を目的とする。全身性強皮症は多臓器にわたる合併症を有し、進行性の疾患である。本検査を使用することで、早期診断、治療介入を行うことができ予後の改善が期待できる。			

医療技術名	成人発症難治性ネフローゼ症候群に対する寛解維持療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 <p>現行の免疫抑制療法にて頻回再発を繰り返す成人発症難治性ネフローゼ症候群の患者に対して、リツキシマブ注による寛解導入は速やかなステロイド剤の減量と再発率の軽減を可能とする。高難度新規技術等評価委員会にて承認され、適応外使用にて投与を行っている。</p>			
医療技術名	術後腸管に対するバルン内視鏡下ERCP	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要 <p>術後腸管に対するERCPは、これまで困難であったがバルン内視鏡によって容易になった。 しかし、バルン内視鏡を施行する施設は限定しており、現状ではハイボリュウムセンターのみで行われている。</p>			
医療技術名	超音波内視鏡下瘻孔形成術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 <p>超音波内視鏡下瘻孔形成術は、経消化管的に胆道ドレナージ膵膿瘍ドレナージを行う手技で専用のデバイスがなく手技も確立していると言えず、限定した施設のみで施行している。</p>			
医療技術名	高度脈管浸潤肝癌に対する3DCRT併用肝動注リザーバー治療	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 <p>脈管浸潤を伴う肝癌は予後が短く、確立された治療法はないのが現状。放射線治療やリザーバー肝動注治療は限定された施設のみで可能な治療である。</p>			
医療技術名	免疫性神経疾患におけるガンマグロブリン静注療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 <p>重症筋無力症および視神経脊髄炎に対し、定期的なガンマグロブリン静注療法を行い、再発を予防している。</p>			
医療技術名	局所免疫療法による円形脱毛症の治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 <p>4名のうち1名終了。3名継続中。特記すべき有害事象無し。</p>			
医療技術名	ビリルビンの精密解析	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 <p>ビリルビンの光異性体、抱合体を高速液体クロマトグラフィーを用いて高精度分析し、新生児高ビリルビン血症の病因、治療効果判定に用いる。</p>			
医療技術名	光学的非侵襲的脳代謝・循環の測定	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 <p>神経学的後遺症の軽減を目的とした、近赤外分光測定法を用いて、新生児の循環、代謝を評価。</p>			
医療技術名	末期的心臓病に対する外科手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 <p>人工心臓・心臓移植の適応を考慮する末期的心臓病患者に対する僧帽弁手術・左室形成術</p>			
医療技術名	術前化学放射線治療を用いた膵癌治療	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 <p>切除可能・切除境界型浸潤性膵癌患者に対して抗がん剤を併用した放射線治療を一定期間行った後に外科切除を施行している。これにより病理学的な完全切除が高率に得られており、生存率の向上に寄与する可能性がある。</p>			
医療技術名	気管・気管支形成を伴う肺癌手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 <p>肺・気管の悪性腫瘍に対して気道再建を伴う手術を行う。</p>			
医療技術名	局所進行癌に対する集学的治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 <p>局所進行肺癌に対して放射線化学療法後に肺癌手術を行う。</p>			
医療技術名	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 <p>両側鼠径ヘルニア手術を鏡視下に行っている。</p>			

医療技術名	ロボット支援下腎部分切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いて、複雑な腎腫瘍に対し、腎を全摘することなく部分切除する。			
医療技術名	ロボット支援下膀胱全摘除術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いて、膀胱癌に対し、膀胱全摘除術を行う。さらに、体腔内で代用膀胱作製などの尿路変向術も行う。			
医療技術名	脳神経外科手術に対する術中MRI	取扱患者数	53人
当該医療技術の概要 手術室と同室に備え付けられたMRI装置により、患者を別室に移動することなく手術中にMRIを撮影することが出来る。術中MRI撮影により、主に脳腫瘍の摘出術において、手術の安全性ならびに確実性の向上に寄与する。			
医療技術名	重症脳卒中および重症頭部外傷に対する脳低温・平温療法	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 重症脳卒中および重症頭部外傷に対して、脳保護を目的とした脳低温・平温療法である。			
医療技術名	脳神経外科手術における神経モニタリング	取扱患者数	81人
当該医療技術の概要 手術による脳神経の損傷を避けるため、大脳皮質を脳表ないし経頭蓋的に電気刺激、または脳神経を直接電気刺激する。電気刺激に対する神経の反応を確認しながら手術を行うことで、神経損傷を未然に防ぐ。手術の安全性ならびに確実性の向上に寄与する。			
医療技術名	脳神経外科手術に対する術中ナビゲーション	取扱患者数	85人
当該医療技術の概要 術中ナビゲーション装置により、腫瘍や病変の局在部位を手術中に確認する。また上記術中MRIの技術と組み合わせることで、腫瘍摘出術での残存腫瘍の部位をリアルタイムに把握できる。手術の安全性・確実性だけでなく、腫瘍の摘出率の向上にも極めて有用である。			
医療技術名	5-アミノレブリン酸を用いた脳腫瘍手術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍の手術において、病変は周囲脳との境界が不明瞭であり、目視で摘出範囲を決定するのが困難なことが多い。術前に投与されたアミノレブリン酸により腫瘍が蛍光標識される。腫瘍摘出の確実性を増すことができる。			
医療技術名	インドシアニングリーンを用いた脳血管障害手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 脳血管障害の手術において、術中にインドシアニンググリーンを静脈投与し偏光顕微鏡で観察することで、脳血管の血行動態を術中に把握することができる。脳動脈瘤クリッピング術や血管吻合術において、確実な手術を行うことができる。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するステントを併用したコイル塞栓術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤の中で、サイズの大きなものや頸部が広いものはコイルのみでの塞栓術は困難であり、ステントを併用することでより確実なコイル塞栓術を行うことができる。			
医療技術名	脳動静脈奇形に対するOnyx embolic systemを用いた塞栓術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 脳動静脈奇形は治療が困難な疾患である。液体塞栓物質であるOnyx embolic systemを用いた塞栓術を行うことで、脳動静脈奇形を消失させたり、塞栓術後の摘出術や定位放射線治療の成績を向上させたりすることができる。			
医療技術名	脳梗塞急性期における機械的血栓回収療法	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 脳梗塞急性期におけるrt-PAによる血栓溶解療法に反応しない症例に対して、様々な血栓回収器材を用いて閉塞した血管を物理的に再開通させることができる。			
医療技術名	神経内視鏡下経鼻的下垂体手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 下垂体腺腫等のトルコ鞍部の脳腫瘍手術において、従来の顕微鏡を用いた手術にかわり、経鼻的に挿入された神経内視鏡を用いた手術である。神経内視鏡の使用により、従来の手術よりも遥かに良好な視野が得られ、侵襲の少ない手術が可能である。			
医療技術名	フローダイバーターシステムを用いた大型・巨大脳動脈瘤治療	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 メッシュ状の筒型デバイス(Pipeline FlexおよびFRED)を脳動脈瘤のある動脈に留置し、母血管の血流を温存しつつ脳動脈瘤内部の血栓形成を促進する。遮断された脳動脈瘤入口部で内膜新生を誘引し、脳動脈瘤の破裂リスクを低減させる。			

医療技術名	経口腔的内視鏡下咽喉頭腫瘍切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 特殊な開口器、喉頭鏡を用いて内視鏡下に切除する。			
医療技術名	内視鏡補助下頭蓋底腫瘍摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 外切開を加えることなく、経鼻的・経口的に側頭下窩、頭蓋底の腫瘍を切除する。			
医療技術名	肝癌に対する肝動脈塞栓療法	取扱患者数	86人
当該医療技術の概要 肝癌に対してカテーテルを利用して肝動脈塞栓手術を行う。			
医療技術名	肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術			
医療技術名	高速ヘリカルCTによる3次元画像	取扱患者数	1,756人
当該医療技術の概要 高速ヘリカルCTによる3次元画像			
医療技術名	強度変調放射線治療 (IMRT)	取扱患者数	95人
当該医療技術の概要 多分割絞り(マルチリーフコリメータ)などを用いて、空間的又は時間的な放射線強度の調整を同一部位に対する複数方向からの照射について行うことで、三次元での線量分布を最適なものとする照射療法。3方向以上の照射角度から各門につき3種以上の線束強度変化をもつビームによる治療計画を逆方向治療計画法(インバースプラン)にて立案したもの。			
医療技術名	画像誘導放射線治療 (IGRT)	取扱患者数	125人
当該医療技術の概要 毎回の照射時に治療計画時と照射時の照射中心位置の三次元的な空間的再現性が5ミリメートル以内であることを照射室内で画像的に確認・記録して照射する治療。			
医療技術名	密封小線源治療 組織内照射 前立腺癌に対する永久挿入療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 前立腺組織内にヨウ素 125 粒子を挿入する療法。			
医療技術名	顔面神経麻痺形成手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 顔面神経麻痺に対するネットワーク型神経移植			
医療技術名	遊離皮弁術、遊離複合組織移植術	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 顕微鏡下血管吻合を用いた組織移植			
医療技術名	リンパ管静脈吻合	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 スーパーマイクロサージャリー技術を用いたリンパ管静脈吻合によるリンパ浮腫治療			
医療技術名	漏斗胸手術	取扱患者数	46人
当該医療技術の概要 3Dシミュレーションにより胸郭変形を予測した漏斗胸手術			

医療技術名	EBER in situ hibridization検査	取扱患者数	56人
当該医療技術の概要 バーキットリンパ腫・上咽頭癌・ホジキンリンパ腫・T/NKリンパ腫移植後リンパ増殖異常の感染証明。			
医療技術名	免疫抗体によるALK染色	取扱患者数	56人
当該医療技術の概要 非扁平上皮癌の治療に有効な分子標的治療薬適用のための診断。			
医療技術名	超音波内視鏡による細胞診・組織診	取扱患者数	106人
当該医療技術の概要 超音波内視鏡によるon site cytologyとon site biopsyの診断。			
医療技術名	ヒルシュスプリング病のアセチルコリン染色	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ヒルシュスプリング病の診断。			
医療技術名	腎臓並びに移植腎の特殊染色(アルポート症候群を含む)	取扱患者数	95人
当該医療技術の概要 腎生検・移植腎の腎炎・拒絶反応の診断。			
医療技術名	PD-L1 IHC検査	取扱患者数	85人
当該医療技術の概要 非小細胞肺癌と頭頸部癌と乳癌の免疫チェックポイント阻害剤の適応の可否			
医療技術名	がんゲノム遺伝子検査の適応評価	取扱患者数	99人
当該医療技術の概要 がん遺伝子パネル検査におけるFFPEブロックの質と量の判定			
医療技術名	内視鏡下の唾石摘出術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 大唾液腺に生じた唾石は、皮膚切開し唾液腺摘出が必要となったり口腔内を大きく切開し唾石を摘出することが必要であるが内視鏡を用いることで低侵襲となり小さな切除で唾石を摘出することが可能になる。			
医療技術名	顎顔面領域での3D模型およびコンピュータによる支援手術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 歯科口腔外科と耳鼻咽喉科・頭頸部外科との連携による顎骨切除時の三次元的な顎位復元および歯科口腔外科での顎矯正手術時の上下顎位置決めのために、3D模型によるシミュレーションおよびコンピュータシミュレーションによる予後予測を検討し、手術支援を行う。これにより手術時間の短縮、咬合機能、摂食嚥下機能、審美的満足度の向上が得られる。			
医療技術名	内視鏡を用いた下顎骨関節突起骨折に対する低侵襲手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 下顎骨関節突起骨折への手術到達法は広い視野を得られる経口的(経皮的)アプローチが多いが、顔面皮膚瘢痕と、顔面神経障害についての後遺障害リスクがある。、内視鏡補助視野下での経口的アプローチは高い技術と経験、特殊器具機材を要することから限られた施設でのみ適応可能で、皮膚瘢痕がなく、顔面神経障害のリスクが非常に低い。			
医療技術名	重症脳障害に対する体温管理療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 心肺停止後症候群(PCAS)、くも膜下出血(SAH)等の重症脳障害に対し、体温管理療法を行っている。			
医療技術名	PCASに対する体外循環式心肺蘇生法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 PCASに対し体外循環式心肺蘇生法を行う。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	47
2	筋萎縮性側索硬化症	19	57	特発性拡張型心筋症	27
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	8
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	14
6	パーキンソン病	184	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	8	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンテントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	17
9	神経有棘赤血球症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	80	66	IgA 腎症	33
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	21
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	81	68	黄色靭帯骨化症	12
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	28	69	後縦靭帯骨化症	33
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クローウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	21
17	多系統萎縮症	16	72	下垂体性ADH分泌異常症	7
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	33	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	7
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	11
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	27	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	32
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	67
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	25	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	33
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	14
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	13
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	10
34	神経線維腫症	15	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	1	90	網膜色素変性症	11
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	66
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	16	95	自己免疫性肝炎	8
41	巨細胞性動脈炎	10	96	クローン病	36
42	結節性多発動脈炎	18	97	潰瘍性大腸炎	53
43	顕微鏡的多発血管炎	34	98	好酸球性消化管疾患	5
44	多発血管炎性肉芽腫症	19	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	14	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	4	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	157	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	102	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	62	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	33	107	若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	38	108	旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	0
54	成人スチル病	10	109	TNF受容体関連周期性症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	2	110	非典型溶血性尿毒症症候群	0
				ブラウ症候群	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	17	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	2	170	オキシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	2	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	1	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鯉耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
211 左心低形成症候群	0	272 進行性骨化性線維異形成症	0
212 三尖弁閉鎖症	0	273 肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	274 骨形成不全症	0
214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	275 タナトフォリック骨異形成症	0
215 ファロー四徴症	0	276 軟骨無形成症	0
216 両大血管右室起始症	0	277 リンパ管腫症/ゴーハム病	0
217 エプスタイン病	0	278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
218 アルポート症候群	0	279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
219 ギャロウェイ・モフト症候群	0	280 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
220 急速進行性糸球体腎炎	1	281 クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
221 抗糸球体基底膜腎炎	0	282 先天性赤血球形成異常性貧血	0
222 一次性ネフローゼ症候群	47	283 後天性赤芽球癆	0
223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	284 ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
224 紫斑病性腎炎	4	285 ファンコニ貧血	0
225 先天性腎性尿崩症	1	286 遺伝性鉄芽球性貧血	0
226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	287 エプスタイン症候群	0
227 オスラー病	1	288 自己免疫性出血病XIII	1
228 閉塞性細気管支炎	0	289 クロンカイト・カナダ症候群	0
229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	290 非特異性多発性小腸潰瘍症	0
230 肺胞低換気症候群	0	291 ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
231 $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠乏症	0	292 総排泄腔外反症	0
232 カーニー複合	0	293 総排泄腔遺残	0
233 ウォルフラム症候群	0	294 先天性横隔膜ヘルニア	0
234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	295 乳幼児肝巨大血管腫	0
235 副甲状腺機能低下症	2	296 胆道閉鎖症	1
236 偽性副甲状腺機能低下症	1	297 アラジール症候群	0
237 副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	298 遺伝性膀胱炎	0
238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	299 嚢胞性線維症	0
239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	300 IgG4関連疾患	11
240 フェニルケトン尿症	0	301 黄斑ジストロフィー	1
241 高チロシン血症1型	0	302 レーベル遺伝性視神経症	1
242 高チロシン血症2型	0	303 アッシュャー症候群	0
243 高チロシン血症3型	0	304 若年発症型両側性感音難聴	0
244 メープルシロップ尿症	0	305 遅発性内リンパ水腫	0
245 プロピオン酸血症	0	306 好酸球性副鼻腔炎	59
246 メチルマロン酸血症	1	307 カナバン病	0
247 イソ吉草酸血症	0	308 進行性白質脳症	0
248 グルコーストランスポーター1欠損症	0	309 進行性ミオクローヌスてんかん	0
249 グルタル酸血症1型	0	310 先天異常症候群	0
250 グルタル酸血症2型	0	311 先天性三尖弁狭窄症	0
251 尿素サイクル異常症	0	312 先天性僧帽弁狭窄症	0
252 リジン尿性蛋白不耐症	0	313 先天性肺静脈狭窄症	0
253 先天性葉酸吸収不全	0	314 左肺動脈右肺動脈起始症	0
254 ポルフィリン症	1	315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	1
255 複合カルボキシラーゼ欠損症	0	316 カルニチン回路異常症	0
256 筋型糖原病	0	317 三頭酵素欠損症	0
257 肝型糖原病	0	318 シトリン欠損症	0
258 ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	319 セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
259 レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
260 シトステロール血症	0	321 非ケトーシス型高グリシン血症	0
261 タンジール病	0	322 β -ケトチオラーゼ欠損症	0
262 原発性高カイトミクロン血症	0	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
263 脳腫黄色腫症	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
264 無 β リポタンパク血症	0	325 遺伝性自己炎症疾患	0
265 脂肪萎縮症	0	326 大理石骨病	0
266 家族性地中海熱	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
267 高IgD症候群	0	328 前眼部形成異常	0
268 中條・西村症候群	0	329 無虹彩症	0
269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	330 先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
270 慢性再発性多発性骨髄炎	0	331 特発性多中心性キャッスルマン病	2
271 強直性脊椎炎	14	332 膠様滴状角膜ジストロフィー	0
		333 ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・後発医薬品使用体制加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・特定機能病院入院基本料(一般 7対1)	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料(精神 13対1)	・入退院支援加算
・救急医療管理加算	・認知症ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・診療録管理体制加算2	・精神疾患診療体制加算
・医師事務作業補助体制加算1	・排尿自立支援加算
・急性期看護補助体制加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・看護職員夜間配置加算	・救命救急入院料1
・看護補助加算	・救命救急入院料4
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料2
・重症者等療養環境特別加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・無菌治療室管理加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・無菌治療室管理加算2	・新生児治療回復室入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・
・重度アルコール依存症入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・ウイルス疾患指導料	・医療機器安全管理料1
・外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	・医療機器安全管理料2
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・医療機器安全管理料(歯科)
・糖尿病合併症管理料	・精神科退院時共同指導料1及び2
・がん性疼痛緩和指導管理料	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・がん患者指導管理料イ	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・がん患者指導管理料ロ	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導管理料ハ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料ニ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・外来緩和ケア管理料	・遺伝学的検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・有床義歯咀嚼機能検査1のイ
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・小児運動器疾患指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・がんゲノムプロファイリング検査
・婦人科特定疾患治療管理料	・先天性代謝異常症検査
・腎代替療法指導管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来放射線照射診療料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ニコチン依存症管理料	・検体検査管理加算(IV)
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・遺伝カウンセリング加算
・がん治療連携計画策定料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・外来排尿自立指導料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・胎児心エコー法
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト
・薬剤管理指導料	・ヘッドアップティルト試験

・長期継続頭蓋内脳波検査	・認知療法・認知行動療法1
・神経学的検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・補聴器適合検査	・医療保護入院等診療料
・全視野精密網膜電図	・口腔粘膜処置
・ロービジョン検査判断料	・レーザー機器加算
・小児食物アレルギー負荷検査	・硬膜外自家血注入
・内服・点滴誘発試験	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・画像診断管理加算2	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・ポジトロン断層撮影	・人工腎臓
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・CT撮影及びMRI撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・冠動脈CT撮影加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・外傷全身CT加算	・磁気による膀胱等刺激法
・心臓MRI撮影加算	・手術用顕微鏡加算
・乳房MRI撮影加算	・CAD/CAM冠
・小児鎮静下MRI撮影加算	・歯科技工加算1及び2
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・センチネルリンパ節加算
・外来化学療法加算1	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・連携充実加算	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・無菌製剤処理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・椎間板内酵素注入療法
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・がん患者リハビリテーション料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・羊膜移植術

・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・網膜再建術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・人工中耳植込術	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・補助人工心臓
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・経皮的下肢動脈形成術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・腹腔鏡下肝切除術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・生体部分肝移植術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・同種死体腎移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・生体腎移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・膀胱水圧拡張術
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術

・人工尿道括約筋植込・置換術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	
・胎児胸腔・羊水腔シヤント術	
・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に規定する手術)	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	
・輸血管理料Ⅱ	
・貯血式自己血輸血管理体制加算	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・歯根端切除手術の注3	
・麻酔管理料(Ⅰ)	
・麻酔管理料(Ⅱ)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	外来放射線治療加算
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・遺伝学的検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	12 回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 11 例 / 剖検率 5.9 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
スモンに関する調査研究	鎌田正紀	神経難病講座	400,000	(補委) 厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	土橋浩章	血液・免疫・呼吸器内科学	400,000	(補委) 厚生労働省
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	土橋浩章	血液・免疫・呼吸器内科学	486,000	(補委) 厚生労働省
原発性高脂血症に関する調査研究	南野哲男	循環器・腎臓・脳卒中内科学	200,000	(補委) 厚生労働省
医療情報データベースの活用推進に関する研究	横井英人	医療情報部	4,000,000	(補委) 厚生労働省
医療機器の不具合用語集の国際整合及び不具合報告の効率的な活用のためのシステム構築の研究	横井英人	医療情報部	3,210,000	補委) 日本医療研究開発機構
小児生活習慣病予防健診を活用した家族性高コレステロール血症の早期診断と継続的支援のための保健と医療の連携モデル構築と動脈硬化進展予測バイオマーカーの開発	南野哲男	循環器・腎臓・脳卒中内科学	11,890,001	補委) 日本医療研究開発機構
消化管異物及び巨大切除標本の包装型回収機器の開発	小林伸也	消化器内科	2,040,000	補委) 日本医療研究開発機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	山本哲司	整形外科	390,000	補委) 日本医療研究開発機構
マージナルドナー腎移植の安全性に関する新規エビデンス創出研究	祖父江理	腎臓内科	338,000	補委) 日本医療研究開発機構
難治性血管炎診療のCQ解決のための多層的研究	土橋浩章	血液・免疫・呼吸器内科学	390,000	補委) 日本医療研究開発機構
革新的抗がんウイルス療法の実用化臨床研究	門脇則光	血液・免疫・呼吸器内科学	1,300,000	補委) 日本医療研究開発機構
ベーチェット病の病態解明および治療法開発を目的とした全国レジストリの構築	土橋浩章	血液・免疫・呼吸器内科学	300,000	補委) 日本医療研究開発機構
大規模医療情報の標準化のための統一的管理手法の構築と利活用の研究	横井英人	医療情報部	390,000	補委) 日本医療研究開発機構
克服等総合研究事業 研究開発課題名: 胎児心電図を用いた次世代胎児モニタリング診断技術の研究	金西賢治	周産期学婦人科学	260,000	補委) 日本医療研究開発機構
根治切除不能腎細胞癌に対する希少糖D-alloseを用いた新規治療戦略の構築	田岡利宜也	泌尿器科学	3,500,000	(補委) 日本医療研究開発機構
尿検体を用いて在宅での心不全モニタリングを可能とするELISAキットの開発	横山聖太	循環器・腎臓・脳卒中内科学	1,500,000	(補委) 日本医療研究開発機構
鼓膜再生に最適化した緻密コラーゲンシートの開発研究	宮下武憲	耳鼻咽喉科学	3,500,000	(補委) 日本医療研究開発機構
血糖上昇抑制作用を有する希少糖含有腹膜透析液の開発	南野哲男	循環器・腎臓・脳卒中内科学	1,500,000	(補委) 日本医療研究開発機構
急性骨髄性白血病に対する治療用がんペプチドワクチン「DSP-7888」のPhase2医師主導治験	門脇 則光	血液内科	2,000,000	補委) 日本医療研究開発機構
臨床研究・治験推進研究事業、顕微鏡的多発血管炎および多発血管炎性肉芽腫症に対するトシリズマブの有効性、安全性、薬物動態に関する医師主導治験(201k0201119h0001)	土橋浩章	膠原病内科	390,000	補委) 日本医療研究開発機構
IMRTなど高精度放射線治療に適用する呼吸停止下照射システムの開発に関する研究	柴田 徹	放射線治療科	650,000	(補委) 日本学術振興会

18F-FLT PETを用いた心サルコイドーシスの活動性評価に関する研究	則兼 敬志	放射線医学	260,000	(補委)	日本学術振興会
グリオーマにおける(プロ)レニン受容体をターゲットとした新規分子治療の研究	田宮 隆	脳神経外科学	4,940,000	(補委)	日本学術振興会
メタボローム解析による膵癌術前化学放射線療法における治療抵抗性の病態解明	岡野 圭一	消化器外科	650,000	(補委)	日本学術振興会
原発性胆汁性胆管炎におけるエクソソーム内のmicroRNAを標的とした予後予測	野村 貴子	消化器・神経内科学	780,000	(補委)	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌の骨転移治療における骨転移定量評価を目指す研究	田中 賢一	放射線診断科	1,560,000	(補委)	日本学術振興会
ウイルス療法と腸内細菌叢制御を統合した造血器腫瘍の新規免疫療法	門脇 則光	血液・免疫・呼吸器内科学	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
脂肪毒性のメカニズムの解明と膵β細胞の機能改善への治療戦略	村尾 孝児	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	910,000	(補委)	日本学術振興会
非抗原性ブタ気管細胞外マトリックスを用いた異種気道手術材料の開発	呉 哲彦	呼吸器外科	1,690,000	(補委)	日本学術振興会
(p)RRを抑制するmicroRNAはグリオーマの腫瘍形成能を失わせるか？	小川 大輔	脳神経外科	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
HSP阻害剤に対する防御的オートファジーの制御による骨軟部肉腫の新たな治療戦略	山本 哲司	整形外科	650,000	(補委)	日本学術振興会
移植腎病理レジストリ構築を介した腎移植後IgA沈着症予後予測の試み	祖父江 理	腎臓内科	1,820,000	(補委)	日本学術振興会
PET画像と循環腫瘍細胞モニタリングを組み合わせた遠隔転移と治療効果予測法の確立	星川 広史	耳鼻咽喉科学	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
Adipose tissue flap creation in an in vivo Tissue Engineering Chamber in rabbit	田中 嘉雄	形成外科学	780,000	(補委)	日本学術振興会
歯エナメル質生体EPR被曝線量測定装置の開発	三宅 実	歯科口腔外科学	780,000	(補委)	日本学術振興会
生活習慣病薬による大腸癌の抗腫瘍作用:新規化学予防薬としての降圧薬ARBの関与	小原 英幹	消化器内科	260,000	(補委)	日本学術振興会
漏斗胸に対するプレート矯正治療に伴いうる、脊椎の彎曲を予測する診断システムの開発	永竿 智久	形成外科学	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
医療安全のための座位心臓超音波検査法開発とフレイル・要介護者の心機能評価への応用	舩形 尚	総合内科	780,000	(補委)	日本学術振興会
超音波内視鏡下穿刺吸引術で得た腫瘍組織miRNAの網羅的解析から導かれる病態解明	加藤 清仁	消化器・神経内科学	130,000	(補委)	日本学術振興会
新たな心拍変動解析法による低出生体重児の発達予後予測	加藤 育子	小児科	780,000	(補委)	日本学術振興会
血清マイクロRNAを用いた慢性C型肝炎SVR症例の予後予測法開発	田所 智子	消化器内科	910,000	(補委)	日本学術振興会
糖尿病網膜症に網膜内血管再生を誘導することによる根本的治療法開発	鈴間 潔	眼科学	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
microRNA-6126によるHBV増殖抑制機構の解明	藤田 浩二	消化器内科	910,000	(補委)	日本学術振興会
DNA合成および低酸素イメージングにテクスチャ解析を応用した脳腫瘍の病態評価研究	山本 由佳	放射線医学	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
水素ガス吸入を用いた新規新生児蘇生法の開発	中村 信嗣	小児科学	1,170,000	(補委)	日本学術振興会
新生児における脳循環、酸素代謝状態に基づく輸血基準作成の為の基礎的検討	小谷野 耕佑	総合周産期母子医療センター	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
転移性肝臓癌に対するGalectin-9の抗腫瘍効果とそのmicroRNA基盤	正木 勉	消化器・神経内科学	1,820,000	(補委)	日本学術振興会
MET阻害とワクシニアウイルス療法を併用した肺癌に対する複合的分子標的・免疫療法	金地 伸拓	呼吸器内科	1,560,000	(補委)	日本学術振興会
成長因子徐放ゼラチンシートを用いた肺胞再生	横見瀬 裕保	呼吸器・乳腺内分泌外科学	1,170,000	(補委)	日本学術振興会
麻酔・周術期関連薬剤投与自動制御システムに関する検討	白神 豪太郎	麻酔学	650,000	(補委)	日本学術振興会

膜受容体の流動性とシグナル伝達の関係性から見た揮発性麻酔薬作用機序の解明	小野 純一郎	麻酔学	1,040,000	(補委)	日本学術振興会
本邦における院外心停止患者に対するECPRに関する多施設後向き観察研究	黒田 泰弘	救急災害医学	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
脳腫瘍における分子イメージングを併用した画像と病理・遺伝子解析との関連	三宅 啓介	脳神経外科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
トロンピン受容体を標的とした新たなインスリン抵抗性改善策の開発	橋本 剛	自律機能生理学	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
低出生体重児特有の感覚特性を伴う発達障害の病態解明とその治療戦略	福家 典子	小児科	1,560,000	(補委)	日本学術振興会
食道扁平上皮癌におけるガレクチン9の抗腫瘍作用の解明と標的microRNAの同定	千代 大翔	消化器内科	910,000	(補委)	日本学術振興会
胆管癌におけるマイクロRNAの網羅的解析及び癌特異的マイクロRNAの機能解析	小林 聖幸	消化器・神経内科学	910,000	(補委)	日本学術振興会
脳循環代謝予備能の重症度評価における新規SPECT検査法の開発	三田村 克哉	放射線部(放射線医学)	1,170,000	(補委)	日本学術振興会
アンジオテンシン受容体拮抗薬と分子標的薬の肝癌抑制とエクソソームmiRNA解析	大浦 杏子	消化器内科	2,080,000	(補委)	日本学術振興会
抗体結合型リポソームを用いた新規腎疾患治療薬の開発	大西 啓右	腎臓内科	1,560,000	(補委)	日本学術振興会
生体リズムを利用した化学療法患者の菌血症の発症抑制	植村 麻希子	血液・免疫・呼吸器内科学	650,000	(補委)	日本学術振興会
精巣捻転症に対する希少糖による新規治療法の開発ー虚血再灌流障害の抑制ー	形見 祐人	小児外科	1,560,000	(補委)	日本学術振興会
新規CTC測定系を用いた前立腺癌循環腫瘍細胞測定法の開発	加藤 琢磨	泌尿器科学	1,560,000	(補委)	日本学術振興会
ショートパルス網膜光凝固における遺伝子発現プロファイル	藤田 智純	眼科学	1,040,000	(補委)	日本学術振興会
代償性肺成長の予測・促進因子の検討 ～bFGFはそのKeyと成りうるか～	藤原 敦史	呼吸器外科	1,040,000	(補委)	日本学術振興会
TLR経路と樹状細胞を標的とした骨髄異形成症候群の病態解明および新規治療の開発	木田 潤一郎	輸血部(血液・免疫・呼吸器内科学)	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
膵β細胞での脂肪毒性に関わるABCA1発現制御機構の解明	佐藤 誠祐	内分泌代謝内科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
腫瘍浸潤リンパ球と腫瘍関連マクロファージに着目した肺癌細胞の進展メカニズムの解明	門田 球一	病理診断科	2,600,000	(補委)	日本学術振興会
非アルコール性脂肪性肝炎進展を抑制するマクロファージを用いた新しい細胞治療	森下 朝洋	消化器内科	1,690,000	(補委)	日本学術振興会
神経炎症と増殖能イメージングによる脳腫瘍の病態評価研究	西山 佳宏	放射線医学	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
PETテクスチャ解析を用いた間質性肺炎合併肺癌術後急性増悪予測バイオマーカー開発	室田 真希子	放射線診断科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
腫瘍増殖能とテクスチャ解析に着目した膵癌のPET分子イメージング研究	奥田 花江	放射線医学	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
早産児肺障害に対する水素ガスを用いた新しい予防・治療法の開発	近藤 園子	小児科学	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
小学生におけるLDL-コレステロールの健診スクリーニングの意義	南野 哲男	循環器・腎臓・脳卒中内科学	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
希少糖D-alloseを用いた新規腎細胞癌治療の構築:抗腫瘍メカニズムの解明	田岡 利宜也	泌尿器科学	1,170,000	(補委)	日本学術振興会
体組成計測とマイクロRNA測定による非アルコール性脂肪性肝疾患の重症化予測法開発	米山 弘人	消化器・神経内科学	1,690,000	(補委)	日本学術振興会
腸肝軸に着目したNASHの新たな診断方法と創薬についての基礎的研究	谷 丈二	消化器・神経内科学	1,560,000	(補委)	日本学術振興会
自己免疫性胃炎(A型胃炎)におけるmicroRNA診断マーカーの開発	西山 典子	消化器内科	2,080,000	(補委)	日本学術振興会
認知症における脈絡叢を介した尿酸の脳内移行の影響について	植村 直哉	集中治療部(麻酔学)	1,300,000	(補委)	日本学術振興会

PETとMRIの統合評価による膠芽腫の遺伝子変異予測と予後層別化の検討	高見 康景	放射線診断科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
肺癌術前化学放射線療法における呼吸器有害事象の低減に向けた最適な照射方法の確立	高橋 重雄	放射線治療科	1,170,000	(補委)	日本学術振興会
FDG PETによる肺癌の免疫チェックポイント阻害剤の効果判定と副作用予測の研究	石村 茉莉子	放射線診断科	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
レーザーマイクロダイセクションを用いた早期胃癌の浸潤に関わる特異的遺伝子の探索	谷内田 達夫	総合内科	2,730,000	(補委)	日本学術振興会
早期食道癌の増殖・浸潤に関わる特異的マイクロRNA同定と治療戦略への応用	藤原 新太郎	地域医療連携医学講座	2,080,000	(補委)	日本学術振興会
形質細胞様樹状細胞のインターフェロン- α 産生機構-小胞輸送と糖鎖修飾の観点から-	藤田 晴之	血液内科	1,950,000	(補委)	日本学術振興会
Molecular mechanism involved in regulation of ABCA1 expression and lipotoxicity in pancreatic beta cells	Lyu Jingya	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	1,820,000	(補委)	日本学術振興会
低分子グアーガム分解物による腸管上皮保護作用に着目したIFALD予防法の開発	藤井 喬之	小児外科学	1,690,000	(補委)	日本学術振興会
ヒト心房ナトリウム利尿ペプチド(ANP)による急性腎障害改善効果	北村 裕亮	麻酔学	1,430,000	(補委)	日本学術振興会
腫瘍細胞表面バイオマーカーGPR87を標的とした新規治療の開発	土肥 洋一郎	泌尿器・副腎・腎移植外科	1,690,000	(補委)	日本学術振興会
虚血耐性exerciseと海馬のmicro RNAの検討	高田 忠幸	総合内科	2,730,000	(補委)	日本学術振興会
遺伝性筋萎縮性側索硬化症の新規原因遺伝子の同定	久米 広大	自治体病院支援・推進医学講座	780,000	(補委)	日本学術振興会
新規に同定したバリア関連遺伝子による表皮ストレス応答機構の解明	大日 輝記	皮膚科学	1,300,000	(補委)	日本学術振興会

計93件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yuki Nakano	眼科	Retinal ganglion cell loss in kinesin-1 cargo Alcadein α deficient mice.	Cell Death Dis 11(3):166, 2020	Original Article
2	Rie Osaka	眼科	One-year results of anti-vascular endothelial growth factor therapy combined with triamcinolone acetonide for macular edema associated with branch retinal vein occlusion.	Jpn J Ophthalmol 64(6):605-612,2020	Original Article
3	Hirokazu Kojima	眼科	Assessment of primary open-angle glaucoma peripapillary and macular choroidal area using enhanced depth imaging optical coherence tomography	PLoS One 15(4):e0231214, 2020	Original Article
4	Chieko Shiragami	眼科	Reply	Retina 40(9):e54, 2020	Letter
5	Yoshio Tanaka	形成外科	Spontaneously generated large adipose flaps in vivo tissue engineering chambers.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2020 Oct;73(10):1889-1896.	Original Article
6	Osamu Imataki	血液内科	A Case of Tyrosine Kinase Inhibitor-Resistant Chronic Myeloid Leukemia, Chronic Phase with ASXL1 Mutation.	Case Rep Oncol. 13(1):449-455. 2020.4	Case report
7	Risa Wakiya	膠原病・リウマチ内科	Efficacy and Safety of Hydroxychloroquine Therapy for Systemic Lupus Erythematosus Patients Depend on Administration Dose.	Intern Med. 1;59(17):2105-2112. 2020.6	Original Article
8	Osamu Imataki	血液内科	Sea-Blue Histiocytosis of Bone Marrow in a Patient with t(8;22) Acute Myeloid Leukemia.	Case Rep Oncol.13(2):849-852. 2020.7	Case report
9	Hiroshi Shimada	膠原病・リウマチ内科	Factors Affecting the Apgar Score of Offsprings Born to Mothers Suffering from Systemic Lupus Erythematosus.	Medicine. 23;99(43):e22843. 2020.10	Original Article
10	Nobuhiro Kanaji	呼吸器内科	Phase I trial of nedaplatin and S-1 in patients with advanced squamous cell lung cancer.	Mol Clin Oncol. 13(6):90. 2020.12	Original Article

11	Mikiya Kato	膠原病・リウマチ内科	The development of rapidly progressive glomerulonephritis associated with both antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis and anti-glomerular basement membrane nephritis in the course of nontuberculous mycobacterium infection: a case report.	BMC Rheumatol. 4(1):68. 2020.12	Original Article
12	Risa Wakiya	膠原病・リウマチ内科	Sequential change in serum VEGF levels in a case of tocilizumab-resistant TAFRO syndrome treated effectively with rituximab.	Mod Rheumatol Case Rep. 5(1):145-151. 2021.1	Case report
13	Maki Oku	血液内科	Oncolytic herpes simplex virus type 1 (HSV-1) in combination with lenalidomide for plasma cell neoplasms.	Br J Haematol. 192(2):343-353. 2021.1	Case report
14	Yusuke Ushio	膠原病・リウマチ内科	Two cases of refractory eosinophilic granulomatosis with polyangiitis wherein mepolizumab was effective against pulmonary and ear lesions.	Modern Rheumatology Case Reports. 18;1-10. 2021.2	Original Article
15	Ryo Ishino	血液内科	Oncolytic Virus Therapy with HSV-1 for Hematological Malignancies.	Mol Ther. 29(2):762-774. 2021.2	Original Article
16	Kanaji N, Shimizu J, Sakai K, et al.	呼吸器内科	Clinical features of patients with small cell lung cancer and idiopathic pulmonary fibrosis treated with chemotherapy or chemoradiotherapy.	Ther Adv Respir Dis. 2020 Oct	Original Article
17	Tanzawa S, Ushijima S, Shibata K, et al.	呼吸器内科	A phase II study of S-1 and cisplatin with concurrent thoracic radiotherapy followed by durvalumab for unresectable, locally advanced non-small-cell lung cancer in Japan (SAMURAI study).	Ther Adv Med Oncol. 2021 Feb	Original Article
18	Yokota N	呼吸器外科	A New Method for the Detection of Air Leaks Using Aerosolized Indocyanine Green.	Ann Thorac Surg. •111(2)• 436-439•2021.2	Original Article
19	Ikedo T	呼吸器外科	The epithelial-mesenchymal transition phenotype is associated with the frequency of tumor spread through air spaces (STAS) and a High risk of recurrence after resection of lung carcinoma.	Lung Cancer. •153•49-55•2021.3	Original Article
20	Ohbayashi Y	歯科口腔外科学講座	Oral microorganisms and bloodstream infection in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	Clin Oral Investig. 2021 Jan 3. doi: 10.1007/s00784-020-03749-9. Online ahead of print.	Original Article
21	Nagamine Y	歯科口腔外科学講座	D-Tagatose Effectively Reduces the Number of Streptococcus mutans and Oral Bacteria in Healthy Adult Subjects: A Chewing Gum Pilot Study and Randomized Clinical Trial	Acta Med Okayama. 2020 Aug;74(4):307-317.	Original Article
22	Nakai F	歯科口腔外科学講座	Bone metabolism of the jaw in response to bisphosphonate: a quantitative analysis of bone scintigraphy images	Odontology. 2020 Oct;108(4):653-660.	Original Article

23	Miyazaki R	齒科口腔外科学講座	The mechanism of action of Spi-B in the transcriptional activation of the interferon- α 4 gene	Biochem Biophys Res Commun. 2020 Apr 30;525(2):477-482.	Original Article
24	Takehito Kishino, Terushige Mori, Takenori Miyashita, et al.	耳鼻咽喉科	The Utility of Glasgow Prognostic Score and Palliative Prognostic Index in Patients With Head and Neck Squamous Cell Carcinoma Under Palliative Care	Ear Nose Throat J• 2021Mar 26	Original Article
25	Kosuke Akiyama, Yasushi Samukawa, Hiroshi Hoshikawa	耳鼻咽喉科	Olfactory cleft polyposis and respiratory epithelial adenomatoid hamartoma in eosinophilic chronic rhinosinusitis	Int Forum Allergy Rhinol• 2020 Dec;10(12):1337-1339	Original Article
26	Kurahara LH, Hiraishi K, Yamamura A, et al.	自律機能生理学、循環器・腎臓・脳卒中内科	Eicosapentaenoic acid ameliorates pulmonary hypertension via inhibition of tyrosine kinase Fyn.	J Mol Cell Cardiol 148: 50-62, 2020	Original Article
27	Matsunaga K	循環器・腎臓・脳卒中内科	Caution regarding induction of Type 1 Brugada Electrocardiogram through drug testing followed by full-stomach Conditions.	European Heart Journal- Case Reports 2020 1 3	Case report
28	Inoue T	循環器・腎臓・脳卒中内科	A Case of Lymphocytic Myocarditis with Eosinophilic Degranulation Successfully Treated with Steroid Therapy.	Case Reports in Cardiology 2020	Case report
29	Yokoyama S	循環器・腎臓・脳卒中内科	Time Course Changes in Urinary Angiotensinogen and Circulating N-Terminal Pro-B-Type Natriuretic Peptide in Patients Hospitalized with Acute Heart Failure	Internal Medicine 2020 59 (22) 2839 2847	Original Article
30	Miyazaki S	循環器・腎臓・脳卒中内科	Mid-Arm muscle circumference as an indicator of exercise tolerance in chronic heart failure.	Geriatrics & Gerontology International	Original Article
31	Sofue T	循環器・腎臓・脳卒中内科	Prevalence of anemia in patients with chronic kidney disease in Japan: A nationwide, cross-sectional cohort study using data from the Japan Chronic Kidney Disease Database (J-CKD-DB).	PLoS ONE. 2020 15(7) e0236132	Original Article
32	Sofue T	循環器・腎臓・脳卒中内科	Prevalences of hyperuricemia and electrolyte abnormalities in patients with chronic kidney disease in Japan: a nationwide, cross-sectional cohort study using data from the Japan Chronic Kidney Disease Database (J-CKD-DB)	PLoS ONE. 2020 15(10) e0240402	Original Article
33	Sofue T	循環器・腎臓・脳卒中内科	Latent IgA Deposition in Donated Kidneys in an Ethnically Diverse Population.	KI reports 2020 (5) 1853-55	Original Article
34	Yasuda S	小児科	Hour-specific nomogram for transcutaneous Bilirubin in newborns in Myanmar.	Pediatr Int. 62 (9):1049-1053, 2020.09.	Original Article
35	Htun Y	小児科	Hydrogen and therapeutic gases for neonatal hypoxic-ischemic encephalopathy: Potential neuroprotective adjuncts in translational research.	Pediatr Res. 2020.06.	Review

36	Furuichi Yumi	消化器外科	Four cases of laparoscopic colectomy for sigmoid colon and rectal cancer with persistent descending mesocolon.	Surgical Case Reports• 2020 Oct 2;6(1):255.	Case report
37	Oshima Minoru	消化器外科	Changes and prognostic impact of inflammatory nutritional factors during neoadjuvant chemoradiotherapy for patients with resectable and borderline resectable pancreatic cancer.	BMC Gastroenterol•2020 Dec 14;20(1):423.	Original Article
38	Ando Yasuhisa	消化器外科	Current Status and Management of Pancreatic Trauma with Main Pancreatic Duct Injury: A Multicenter Nationwide Survey in Japan	Journal of Hepato-biliary-Pancreatic Sciences•2021 Feb;28(2):183-191.	Original Article
39	Kishino Takayoshi	消化器外科	Laparoscopic hand-sewn esophagojejunal anastomosis in laparoscopic proximal gastrectomy for early gastric cancer	Langenbecks Archives of Surgery• 2021 Mar;406(2):491-496.	Original Article
40	Keiichi Okano	消化器外科	Role of Short-Term Neoadjuvant Chemoradiotherapy for Potentially Resectable Pancreatic Cancer	Am Surg •2021 Feb 25 . doi: 10.1177/0003134821998671.	Original Article
41	Kondo Akihiro	消化器外科	Potential benefit of laparoscopic surgery for rectal cancer on postoperative male sexual function.	Colorectal Disease•2021 Mar 13. doi: 10.1111/codi.15626.	Original Article
42	Yamana H	消化器内科	Metformin Inhibits Proliferation and Tumor Growth of QGP-1 Pancreatic Neuroendocrine Tumor Cells by Inducing Cell Cycle Arrest and Apoptosis.	Anticancer Res40(1): 121-132, 2020	Original Article
43	Kobara H	消化器内科	Efficacy of crystal violet for identifying the distal end in esophageal submucosal tunnel resection.	Minim Invasive Ther Allied Technol31: 1-6, 2020	Original Article
44	Morishita A	消化器内科	Role of microRNA-210-3p in hepatitis B virus-related hepatocellular carcinoma.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol318(3): G401-G409 , 2020	Original Article
45	Kobara H	消化器内科	Outcomes of Endoscopic Submucosal Dissection for Subepithelial Lesions Localized Within the Submucosa, Including Neuroendocrine Tumors: A Multicenter Prospective Study.	J Gastrointest Liver Dis29(1): 41-49, 2020	Original Article
46	Tani J	消化器内科	Simple scoring system for prediction of hepatocellular carcinoma occurrence after hepatitis C virus eradication by direct-acting antiviral treatment: All Kagawa Liver Disease Group Study.	Oncol Lett19(3): 2205-2212, 2020	Original Article
47	Nishiyama N	消化器内科	Strategy of small-caliber endoscopic submucosal dissection for esophageal neoplasia distal to severe stricture.	Endoscopy52(3): E94-E95, 2020	Others
48	Kume K	自治体病院支援・推進医学講座	Middle-age-onset Cerebellar Ataxia Caused by a Homozygous TWNK Variant: A Case Report.	BMC Med Genet21(1):68, 2020	Case report

49	Takata T	総合内科	Light exercise without lactate elevation induces ischemic tolerance through the modulation of microRNA in the gerbil hippocampus.	Brain Res1732: 146710, 2020	Original Article
50	Morishita A	消化器内科	Clinical outcomes of hepatitis C virus elimination using glecaprevir and pibrentasvir in hemodialysis patients: A multicenter study.	Hepatol Res50(5): 557-564, 2020	Original Article
51	Fujita N	消化器内科	Antihypertensive drug telmisartan suppresses the proliferation of gastric cancer cells in vitro and in vivo.	Oncol Rep44(1): 339-348, 2020	Original Article
52	Yachida T	総合内科	Risk of Lymph Node Metastasis in Patients with the Superficial Spreading Type of Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Digestion101(3): 239-244, 2020	Original Article
53	Fujihara S	地域医療連携医学講座	Rebleeding after placing over-the-scope clips: Rare complication of prophylactic closure after gastric endoscopic submucosal dissection.	JGH Open4(6): 1229-1230, 2020	Case report
54	Kobara H	消化器内科	Layer-to-layer closure using a side channel tube and twin gasper forceps for large iatrogenic perforation during balloon dilatation for achalasia.	Dig Liver Dis52: 1203-1204, 2020	Case report
55	Kobara H	消化器内科	Shielding for patients using a single-use vinyl-box under continuous aerosol suction to minimize SARS-CoV-2 transmission during emergency endoscopy.	Dig Endosc32(5): e114-e115, 2020	Case report
56	Kobara H	消化器内科	Ligation-assisted endoscopic full-thickness resection with over-the-scope clip targeted for neuroendocrine tumors.	Ann Gastroenterol33(4): 436, 2020	Others
57	Takata T	総合内科	Disposable aluminum covering for electrodes during nerve conduction studies in COVID-19 patients.	Clin Neurol Neurosurg 195: 106064, 2020	Others
58	Tada N	消化器内科	Guidewire-assisted over-the-scope clip delivery method into the distal intestine: a case series.	Minim Invasive Ther Allied Technol9: 1-6, 2020	Original Article
59	Shi T	消化器内科	Aspirin inhibits hepatocellular carcinoma cell proliferation in vitro and in vivo via inducing cell cycle arrest and apoptosis.	Oncol Rep44: 457-468, 2020	Original Article
60	Kobara H	消化器内科	Antihypertensive drug telmisartan inhibits cell proliferation of gastrointestinal stromal tumor cells in vitro.	Mol Med Rep22: 1063-1071, 2020	Original Article
61	Chiyo T	消化器内科	Safe and economical use of hemostatic forceps for dissecting fibrosis or vessels during endoscopic submucosal dissection	Endosc Int Open8(10): E1520-E1521, 2020	Original Article

62	Yachida T	総合内科	Over-the-scope clip closure indicated as first-line therapy for iatrogenic rectal perforation.	J Gastrointestin Liver Dis29(3): 466-467, 2020	Original Article
63	Nishiyama N	消化器内科	Novel technique using an echo probe cover prevents oral-fecal transmission of SARS-CoV-2 during urgent colonoscopies.	Endoscopy52(9): E349-E350, 2020	Case report
64	Kobara H	消化器内科	Simplified Submucosal Tunneling Biopsy Using Clip-With-Line Traction and Closure for Gastric Subepithelial Lesion.	Diagnostics (Basel)10(9): E690, 2020	Others
65	Tani J	消化器内科	Negative-pressure box under continuous suction for shielding against aerosols produced by patients with COVID-19 during abdominal ultrasound-guided intervention.	Dig Liver Dis52(10): 1080-1081, 2020	Case report
66	Nishiyama N	消化器内科	Novel endoscopic ligation with O-ring closure involving muscle layer of a gastric artificial defect.	Endoscopy52(11): E413-E414, 2020	Original Article
67	Oura K	消化器内科	Molecular and Functional Roles of MicroRNAs in the Progression of Hepatocellular Carcinoma-A Review.	Int J Mol Sci21(21): 8362, 2020	Original Article
68	Kobara H	消化器内科	Uterine Cervical Neoplasm Diagnosed by Flexible Magnifying Endoscopy with Narrow Band Imaging.	Diagnostics (Basel)10(11): E903, 2020	Case report
69	Chiba Y	脳神経内科	Be Wary of Lower Leg Edema in Parkinson Disease!	Am J Med17: S0002-9343(20)31017-2	Case report
70	Fujihara S	地域医療連携医学講座	Rare over-the-scope clip-associated complication: Development of pocket of abdominal cavity following treatment of colonic diverticula.	Dig Liver Dis52(12): 1515-1516, 2020	Others
71	Deguchi K	脳神経内科	Flail arm syndrome mimic caused by hemosiderin deposition in the anterior horn.	Acta Neurol Belg120(6): 1487-1489, 2020	Original Article
72	Namima D	消化器内科	The Effect of Gemcitabine on Cell Cycle Arrest and microRNA Signatures in Pancreatic Cancer Cells.	In Vivo34(6): 3195-3203, 2020	Case report
73	Takata T	総合内科	Premedication of hemin for eradication therapy of Helicobacter pylori in patients with porphyria.	Clin Case Rep26;9(2): 944-946, 2020	Original Article
74	Kobara H	消化器内科	Traction-assisted endoscopic full-thickness resection followed by O-ring and over-the-scope clip closure in the stomach: an animal experimental study.	Endosc Int Open9(1): E51-E57, 2021	Original Article

75	Morishita A	消化器内科	MicroRNAs in the Pathogenesis of Hepatocellular Carcinoma: A Review.	Cancers(Basel)13(3): 514, 2021	Original Article
76	Kobaysashi N	消化器内科	Wafer paper and ring-mounted polyglycolic acid sheet method for shielding artificial gastric floor.	Minim Invasive Ther Allied Technol19: 1-13, 2021	Original Article
77	Tani J	消化器内科	L-carnitine reduces hospital admissions in patients with hepatic encephalopathy.	Eur J Gastroenterol Hepatol32(2): 288-293, 2021	Original Article
78	Shi T	消化器内科	Aspirin inhibits cholangiocarcinoma cell proliferation via cell cycle arrest in vitro and in vivo.	Int J Oncol58(2): 199-210, 2021	Original Article
79	Shi T	消化器内科	Mechanisms Underlying Hepatocellular Carcinoma Progression in Patients with Type 2 Diabetes.	J Hepatocell Carcinoma8: 45-55, 2021	Original Article
80	Morishita A	消化器内科	Diaphragmatic Hernia after Radiofrequency Ablation.	Diagnostics (Basel)11(2): 307, 2021	Original Article
81	Yachida T	総合内科	Successful closure using endoscopic ligation with O-ring and over-the-scope clip in gastric iatrogenic perforation.	Ann Gastroenterol34(3): 450, 2021	Original Article
82	Tada N	消化器内科	Combination sandwich therapy using cyanoacrylate and polyglycolic acid sheets for refractory enterocutaneous fistula closure.	Endoscopy53(3): E114-E115, 2021	Case report
83	Nishiyama N	消化器内科	Vonoprazan may cause white globe appearance in nonatrophic mucosa of stomach.	Gastrointest Endosc93(3): 767-768, 2021	Case report
84	Takata T	総合内科	Time Course of Focal Lesions in Hypoglycemia.	Intern Med60(6): 967-968,2021	Case report
85	Tada N	消化器内科	Modified endoscopic unroofing enucleation using nylon ring traction for a large gastric lipoma.	Dig Endosc33(3): e34-e35, 2021	Others
86	Fujita K	消化器内科	Albumin platelet product as a novel score for liver fibrosis stage and prognosis.	Sci Rep11(1): 5345, 2021	Original Article
87	Morishita A	消化器内科	MicroRNA Interference in Hepatic Host-Pathogen Interactions.	Int J Mol Sci22(7): 3554, 2021	Original Article

88	Oura K	消化器内科	Tumor Immune Microenvironment and Immunosuppressive Therapy in Hepatocellular Carcinoma: A Review.	Int J Mol Sci22(11): 5801, 2021	Original Article
89	Tani J	消化器内科	Long-Term Outcomes and Evaluation of Hepatocellular Carcinoma Recurrence after Hepatitis C Virus Eradication by Direct-Acting Antiviral Treatment: All Kagawa Liver Disease Group (AKLDG) Study.	Cancers (Basel) 13(9): 2257, 2021	Original Article
90	Sachiko Tobiume	整形外科	Effects of VEGF on Prefabricated Vascularized Bone Allografts in Rats	J Reconstr Microsurg. 2021 Jun;37(5):405-412. doi: 10.1055/s-0040-1718394. Epub 2020 Oct 14	Original Article
91	Konosuke Yamaguch	整形外科	Bone Union Enhancement by bFGF-Containing HAp/Col in Prefabricated Vascularized Allo-Bone Grafts	J Reconstr Microsurg. 2021 May;37(4):346-352. doi: 10.1055/s-0040-1716854. Epub 2020 Sep 21.	Original Article
92	Shohei Kawakami	整形外科	prosthetic joint infection after total hip arthroplasty caused by Sneathia sanguinegens: A case report (CARE-complaint)	Medicine (Baltimore). 2020 Oct 9;99(41):e22494. doi: 10.1097/MD.00000000000022494.	Case report
93	Natsuko Fukuoka	整形外科	Subcapital Fracture with Avascular Necrosis of the Whole Femoral Head After Fixation of an Intertrochanteric Fracture: A Case Report	J Orthop Case Rep. 2020 Jul;10(4):42-44. doi: 10.13107/jocr.2020.v10.i04.1794.	Case report
94	Ogawa T	脳神経外科	Diagnostic value of PET/CT with 11C-methionine (MET) and 18F-fluorothymidine (FLT) in newly diagnosed glioma based on the 2016 WHO classification.	EJNMMI research 2020 May 7;10(1):44	Original Article
95	Miyake K	脳神経外科	Multiple PET tracers for use in the classification of gliomas according to the 2016 WHO criteria	Neurooncol Adv. 2020 Dec 7;3(1):vdaa172	Original Article
96	Kato T, Sugimoto M.	泌尿器科	Quality of life in active surveillance for early prostate cancer.	Int J Urol. 2020 Apr;27(4):296-306. doi: 10.1111/iju.14202. Epub 2020 Mar 6.	Review
97	Kato T, Hirama H, Mitsuzuka K, et al.	泌尿器科	Reclassification prediction of first-year protocol biopsy on active surveillance of prostate cancer by p2PSA-related parameters: from PRIAS-JAPAN.	Prostate Cancer Prostatic Dis. 2021 Jul 12. doi: 10.1038/s41391-021-00422-4. Online ahead of print.	Original Article
98	Matsuoka Y, Taoka R, Kohashiguchi K, et al.	泌尿器科	Efficacy and toxicity of intravesical Bacillus Calmette-Guérin therapy in elderly patients with non-muscle-invasive bladder cancer.	Curr Urol. 2021 Mar;15(1):16-21. doi: 10.1097/CU9.000000000000000011. Epub 2021 Mar 29.	Original Article
99	Miyauchi Y, Okazoe H, Tamaki M, et al.	泌尿器科	Obstructive Sleep Apnea Syndrome as a Potential Cause of Nocturia in Younger Adults.	Urology. 2020 Sep;143:42-47. doi: 10.1016/j.urology.2020.04.116. Epub 2020 May 28.	Original Article
100	Taoka R, Matsuoka Y, Kohashiguchi K, et al.	泌尿器科	Impact of second transurethral resection on recurrence in patients with high-grade Ta bladder cancer.	Int J Urol. 2020 Dec;27(12):1130-1135. doi: 10.1111/iju.14372. Epub 2020 Sep 28.	Original Article

101	Tohi Y, Kato T, Matsumoto R, et al.	泌尿器科	The impact of complications after initial prostate biopsy on repeat protocol biopsy acceptance rate. Results from the Prostate Cancer Research International: Active Surveillance JAPAN studyInt J Clin Oncol. 2020 Dec;25(12):2107-2114. doi: 10.1007/s10147-020-01761-3. Epub 2020 Aug 8.	Int J Clin Oncol. 2020 Dec;25(12):2107-2114. doi: 10.1007/s10147-020-01761-3. Epub 2020 Aug 8.	Original Article
102	Tohi Y, Matsuda I, Fujiwara K, et al.	泌尿器科	The predictive factor for pathological downgrading after prostatectomy in patients with biopsy Gleason score 4+3 or 4+4 prostate cancer.	Mol Clin Oncol. 2021 Mar;14(3):56. doi: 10.3892/mco.2021.2218. Epub 2021 Jan 22.	Original Article
103	Ueda N, Naito H, Sugimoto M.	泌尿器科	Spontaneous lumbar artery rupture in a kidney transplant patient: A case report.	Urol Case Rep. 2019 Dec 11;29:101092. doi: 10.1016/j.eucr.2019.101092. eCollection 2020 Mar.	Case report
104	Yamamoto Y, Otsuka A, Ishida Y, et al.	皮膚科	Pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide promotes cutaneous dendritic cell functions in contact hypersensitivity.	J Allergy Clin Immunol, 2021.	Original Article
105	Tahara J, Ono S, Nomura T, et al.	皮膚科	A case of dipeptidyl-peptidase 4 inhibitor-associated pemphigoid nodularis.	Int J Dermatol, 2021.	Case report
106	Tahara J, Dainichi T, Kaku Y, et al.	皮膚科	Temporal triangular alopecia confined to the frontal scalp.	J Dermatol, 2021.	Case report
107	Mori A, Kaku Y, Dainichi T.	皮膚科	Erythema punctatum Higuchi: reconsidering its relationship with adrenergic urticaria and eruptive pseudoangiomatosis.	J Eur Acad Dermatol Venereol, 2021.	Original Article
108	Komatsu-Fujii T, Murata T, Adachi E, et al.	皮膚科	Sterile abscesses possibly stem from acantholytic folliculitis in comedonal Darier's disease: a case report.	Br J Dermatol, 2021.	Case report
109	Kaisho J, Honda T, Dainichi T, et al.	皮膚科	A Case of Atopic Dermatitis with High Serum Levels of Anti-BP180 Antibody and Dyshidrosiform Blisters Limited to the Palms and Soles.	Acta Derm Venereol 101: adv00411, 2021.	Case report
110	Hirano T, Honda T, Kanameishi S, et al.	皮膚科	PD-L1 on mast cells suppresses effector CD8(+) T-cell activation in the skin in murine contact hypersensitivity.	J Allergy Clin Immunol, 2021.	Original Article
111	Dainichi T, Kaku Y, Izumi M, et al.	皮膚科	Successful treatment of severe blepharitis in a patient with atopic dermatitis by topical delgocitinib.	Clin Exp Dermatol, 2021.	Case report
112	Adachi A, Honda T, Dainichi T, et al.	皮膚科	Prolonged high-intensity exercise induces fluctuating immune responses to herpes simplex virus infection via glucocorticoids.	J Allergy Clin Immunol, 2021.	Original Article

113	Tezuka J, Dainichi T, Nomura T, et al.	皮膚科	Superficial candidiasis of the face in a healthy woman with strong induction of human beta defensin-2 expression and reduction of Langerhans cells in the lesional epidermis.	Eur J Dermatol 30: 439-440, 2020.	Case report
114	Tahara J, Kaku Y, Takimoto Ito R, et al.	皮膚科	Amelanotic melanoma of the nail apparatus with regression previously diagnosed as melanoma of unknown primary site with a lymph node metastasis: A case report.	J Dermatol 47: e36-e38, 2020.	Case report
115	Ogawa M, Goto K, Kanameishi S, et al.	皮膚科	Pemphigus vulgaris in a recipient and pemphigus foliaceus in a donor after allogeneic peripheral blood stem cell transplantation between two siblings.	J Eur Acad Dermatol Venereol 34: e383-e386, 2020.	Case report
116	Komatsu-Fujii T, Honda T, Tahara J, et al.	皮膚科	Efficacy of intravenous immunoglobulins for laryngopharyngeal lesions and upper airway obstruction in epidermolysis bullosa acquisita.	J Eur Acad Dermatol Venereol 34: e131-e133, 2020.	Case report
117	Komatsu-Fujii T, Dainichi T, Kaku Y, et al.	皮膚科	Anti-laminin gamma1 pemphigoid with IgE autoantibodies.	J Eur Acad Dermatol Venereol 34: e276-e278, 2020.	Case report
118	Katsuo K, Kaku Y, Tahara J, et al.	皮膚科	Venous leg ulcers associated with abdominal aortic aneurysm.	Int J Dermatol 59: e252-e253, 2020.	Case report
119	Kaisho J, Dainichi T, Tahara J, et al.	皮膚科	Translocation of subcutaneous lesions to the skin surface during spontaneous remission in a case with systemic xanthogranuloma with multiple visceral lesions at birth.	Eur J Dermatol 30: 307-308, 2020.	Case report
120	Dainichi T, Nakajima S, Iwata M, et al.	皮膚科	Net Effects of NETs: New Concepts.	J Invest Dermatol 140: 939-941, 2020.	Original Article
121	Arai-Okuda Hanae	放射線医学	18 F-FDG PET/CT in patients with polymyositis/dermatomyositis: correlation with serum muscle enzymes	Eur J Hybrid Imaging • 2020 Aug	Original Article
122	Ihara-Nishishita Ayumi	放射線医学	Texture indices of 4'-[methyl- 11 C]-thiothymidine uptake predict p16 status in patients with newly diagnosed oropharyngeal squamous cell carcinoma: comparison with 18 F-FDG uptake	Eur J Hybrid Imaging • 2020 Nov	Original Article
123	Mitamura Katsuya	放射線医学	Interim 4'-[methyl- 11 C]-thiothymidine PET for predicting the chemoradiotherapeutic response in head and neck squamous cell carcinoma: comparison with [18 F]FDG PET	EJNMMI Res • 2021 Feb	Original Article
124	Mitamura Katsuya	放射線医学	Disease activity and response to therapy monitored by [18 F]FDG PET/CT using volume-based indices in IgG4-related disease	EJNMMI Res • 2020 Dec	Original Article
125	Takami Yasukage	放射線医学	A preliminary study of relationship among the degree of internal carotid artery stenosis, wall shear stress on MR angiography and 18 F-FDG uptake on PET/CT	J Nucl Cardiol • 2020 Aug	Original Article

126	Murota Makiko	放射線医学	An analysis of anatomical variations of the left pulmonary artery of the interlobar portion for lung resection by three-dimensional CT pulmonary angiography and thin-section images	Jpn J Radiol • 2020 Dec	Original Article
127	Hagiwara Y, Nakayama Y, Kudo S, et al.	放射線治療科	Nationwide survey of radiation therapy in Japan for lung cancer complicated with interstitial lung disease	J Radiat Res. 2020 Jul 6;61(4):563-574	Original Article
128	Takahashi S, Go T, Anada M, et al.	放射線治療科	Correlation of Pathological Complete Response With Tumor Volume Reduction During Neoadjuvant Chemoradiotherapy in Lung Cancer	Anticancer Res. 2020 Aug;40(8):4327-4330	Original Article
129	Ohno T, Soejima T, Sekiguchi Y, et al.	放射線治療科	JASTRO/JCS Guidelines for radiotherapy in patients with cardiac implantable electronic devices	J Radiat Res., 62, (1) 172 - 184	Others
130	Takahashi S, Anada M, Kinoshita T, et al.	放射線治療科	Feasibility of hippocampal dose-volume parameters associated with memory decline in intensity-modulated radiotherapy for supratentorial tumors	Mol Clin Oncol. 2021 Mar;14(3):53	Original Article
131	Takahashi S, Nishide T, Tsuzuki M, et al.	放射線治療科	Target coverage of daily cone-beam computed tomography in breath-hold image-guided radiotherapy for gastric lymphoma	BJR Open Volume 3, Issue 1 17 Feb 2021	Original Article
132	Katayama H	放射線部	Accuracy of target delineation by positron emission tomography-based autosegmentation methods after deformable image registration: A phantom study	Physica Medica 2020/7/23	Original Article
133	Kobata T	放射線部	Efficacy of a Nonrigid Image-registration Method in Comparison to Readout-segmented Echo-planar Imaging for Correcting Distortion in Diffusion-weighted Imaging	Magnetic Resonance of Medical Sciences 2020/7/9	Original Article
134	Morimoto M	放射線部	Effect of quantitative values on shortened acquisition duration in brain tumor 11 C-methionine PET/CT	EJNMMI Physics 2021/3/31	Original Article
135	Hiroaki Tanaka	薬剤部	Relationship between epidermal growth factor receptor mutations and skin rash in non-small cell lung cancer patients	Journal of Chemotherapy, 2020 Apr;32(2):83-87	Original Article
136	Sayaka Yamashita	薬剤部	Relationship between Epidermal Growth Factor Receptor Mutations and Adverse Events in Non-Small Cell Lung Cancer Patients treated with Afatinib	Journal of Medical Investigation, 2021;68(1.2):125-128.	Original Article
137	Rahman A	薬理学	Cardioprotective effects of a nonsteroidal mineralocorticoid receptor blocker, esaxerenone, in Dahl salt-sensitive hypertensive rats.	Int. J. Mol. Sci. 2021, 22(4), 2069	Original Article
138	Yu Guan	薬理学	Protease-Activated Receptor 1 Contributes to Microcirculation Failure and Tubular Damage in Renal Ischemia-Reperfusion Injury in Mice.	Biomed Res Int. 2021 ; 2021 ; 6665714.	Original Article

139	Sufiun A	薬理学	Association of a disrupted dipping pattern of blood pressure with progression of renal injury during the development of salt-dependent hypertension in rats.	Int J Mol Sci. 2020, 21(6)	Original Article
140	Nakayama Y	薬理学	Comparison of the prebiotic properties of native chicory and synthetic inulins using swine fecal cultures.	Biosci Biotechnol Biochem. 2020 Apr 11;1-11. doi:	Original Article
141	Nakano D	薬理学	Lipopolysaccharide induces filtrate leakage from renal tubular lumina into the interstitial space via a proximal tubular Toll-like receptor 4-dependent pathway and limits sensitivity to fluid therapy in mice.	Kidney Int. 2020 May;97(5):904-912	Original Article
142	Morisawa N	薬理学	Renal sympathetic nerve activity regulates cardiovascular energy expenditure in rats fed high salt.	Hypertens Res. 2020 Jun;43(6):482-491	Original Article
143	Lei L	薬理学	Effects of post-renal anemia treatment with the HIF-PHD inhibitor molidustat on adenine-induced renal anemia and kidney disease in mice	J Pharmacol Sci. 2020 Dec;144(4):229-236	Original Article
144	Yamazaki D	薬理学	Failure to confirm an SGLT2 inhibitor-induced hematopoietic effect in non-diabetic rats with renal anemia.	J Diabetes Investig. 2020 Jul;11(4):834-843.	Original Article
145	Rahman A	薬理学	Antiproliferative effects of monoclonal antibodies against (pro)renin receptor in pancreatic ductal adenocarcinoma.	Mol Cancer Ther 19(9): 1844-1855, 2020.	Original Article
146	Nakano D	薬理学	Septic acute kidney injury: a review of basic research	Clinical and Experimental Nephrology volume 24, pages1091-1102(2020)	Original Article

計146件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	秋光純一郎	眼科	両眼の眼窩先端部症候群を呈したANCA関連血管炎の1例	臨床眼科74(7):899-905, 2020	Case report
2	門脇 則光	血液内科	【造血器腫瘍学(第2版)-基礎と臨床の最新研究動向-】造血器腫瘍の診断と治療 治療法 免疫療法(がんワクチン、免疫チェックポイント阻害薬)	日本臨床. 78巻増刊3 造血器腫瘍学 Page255-260. 2020.8	Review
3	土橋 浩章	膠原病・リウマチ内科	【免疫・炎症疾患のすべて】免疫・炎症疾患で用いられる主な治療法 免疫調節薬	日本医師会雑誌. 149巻特別2 Page S136-S139. 2020.10	Review
4	土橋 浩章	膠原病・リウマチ内科	【リウマチ性疾患治療薬の最新の知見】ANCA関連血管炎に対する補体C5a阻害薬アバコパン	リウマチ科. 64巻6号 Page685-694. 2020.12	Review
5	門脇 則光	血液内科	樹状細胞を利用したがん免疫療法の現状と課題	血液内科. 82巻3号423-428. 2021.3	Review
6	塚本豊浩	歯科口腔外科学講座	交通外傷による下顎前歯・歯槽骨欠損に対してインプラントを応用した1症例	日本外傷歯学会雑誌(1880-0572)16巻1号 Page31-36(2020.12)	Original Article
7	田中麻央	歯科口腔外科学講座	ニボルマブの投与により口腔扁平苔癬様の口腔粘膜炎を生じた2例	日本口腔ケア学会雑誌 15巻1号 P42-46	Original Article
8	岡田 仁	小児科	【黄疸】原理に基づいた光療法の実現場での使用と注意点	日本新生児成育医学会雑誌.32(2):252-258,2020.10	Review
9	伊藤 進	小児科	日本小児臨床薬理学会の1つの歴史: 発達薬理から臨床薬理へ	日本小児臨床薬理学会雑誌.33(1):1-6,2020.9	Review
10	中尾泰浩	小児科	MCTミルクにより腹部膨満と体重増加不良の改善を認めたシトリン欠損症の1例	香川県小児科医会会誌.41:25-29,2020.6	Case report
11	土屋冬威	小児科	加熱式タバコ誤飲についての検討	香川県小児科医会会誌.41:30-34,2020.6	Original Article
12	藤井喬之、下野隆一	小児外科学	【改めて認識する小児急性腹症治療に対する外科医の役割】見逃してはならない腹痛(虫垂炎を除く)	日本外科学会雑誌	Review
13	藤井喬之、形見祐人、田中彩、下野隆一	小児外科学	【小児外科領域における感染症 - 抗菌薬の選択と意義】小児肺化膿症の治療	小児外科	Review
14	形見祐人、下野隆一	小児外科学	【そこが知りたいシリーズ:手術で必要な局所解剖(腹壁・後腹膜・泌尿器・腫瘍編)]臍ヘルニア・白線ヘルニア	小児外科	Review

15	古市 ゆみ	消化器外科	繰り返す大量下血に対し術中内視鏡により診断・止血した小腸出血の1例	日本臨床外科学会雑誌 81巻6号 Page1127-1131 2020	Case report
16	福家拓郎	消化器外科	83歳の高齢男性に発症したSolid Pseudopapillary Neoplasmの1例	膵臓 35巻6号P559-567 2020	Case report
17	須藤広誠	消化器外科	膵切除術後の仮性動脈瘤に関する検討	日本Acute Care Surgery 学会誌 2020	Others
18	長尾美奈	消化器外科	緊急手術を行った白線ヘルニア肝円索嵌頓の1例	日本臨床外科学会雑誌 81巻3号588-591 2020	Case report
19	大島 稔	消化器外科	【膵疾患の治療・処置総論】移植治療	膵臓病診療ガイドブック 151-155 2020	Case report
20	福家拓郎	消化器外科	83歳の高齢男性に発症したSolid Pseudopapillary Neoplasmの1例	膵臓 35(6) 2020	Case report
21	竹谷洋	消化器外科	H.pylori陰性胃MALTリンパ腫に合併した胆嚢MALTリンパ腫の1例	日本臨床外科学会雑誌 第81巻12号2513-2518 2020	Case report
22	岡野圭一	消化器外科	簡潔で分かりやすい手術記録の工夫 膵体尾部切除の手術記録を通じて	日本消化器外科学会雑誌 53巻4号 Page390-397 2020	Review
23	藤田浩二	消化器内科	新たな免疫チェックポイント分子	肝臓 2020.03	Review
24	千代大翔	消化器内科	薬剤起因性消化管障害のトピックスー免疫チェックポイント阻害剤関連大腸炎	消化器・肝臓内科 2020.10	Review
25	鎌田英紀	消化器内科	経乳頭の胆嚢ドレナージ不成功例に対するサルベージ治療	消化器内視鏡 2021.03	Review
26	岩田 憲	整形外科	大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折と変形性股関節症における大腿骨頭のマイクロダメージの蓄積の違い	日本関節病学会誌 39巻 4号 Page386-391	Original Article
27	千田 鉄平	整形外科	Short femoral nailを用いた大腿骨転子部骨折の治療における透視の側面像と下肢外旋側面像による治療成績の検討	骨折 43巻2号 Page325-328	Original Article
28	中村 修	整形外科	JuggerKnot Soft Anchorを使用した肘関節脱臼に伴う新鮮肘側副靭帯複合体損傷に対する靭帯修復術	日本肘関節学会雑誌 27 巻2号 Page177-179	Original Article
29	飛梅 祥子	整形外科	Hook plateを用いた高齢者肘頭骨折の治療経験	日本肘関節学会雑誌 27 巻2号 Page81-84	Original Article

30	根ヶ山 敬大	整形外科	Direct Anterior ApproachによるTHAにおける手術時間と大腿筋膜張筋の位置の関連性	日本人工関節学会誌 50巻 Page709-710	Original Article
31	根ヶ山 敬大	整形外科	神経線維腫症I型の神経線維腫に合併した変形性股関節症に対してTHAを施行した1例	日本人工関節学会誌 50巻 Page557-558	Case report
32	福岡 奈津子	整形外科	軟部肉腫肺転移症例の終末期緩和医療に経鼻的持続陽圧呼吸療法が有用であった1例	Palliative Care Research 15巻3号 Page233-237	Case report
33	森 正樹	整形外科	人工膝単顆置換術における顆間窩内側壁を指標とした脛骨コンポーネントの回旋アライメント	JOSKAS 45巻2号 Page488-489	Original Article
34	岡 邦彦	整形外科	手指伸筋腱皮下断裂に対し腱移行後に制限下早期運動療法(ICAM法)を用いた1例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 63巻3号 Page481-482	Case report
35	小林 裕生	リハビリテーション部	人工膝単顆置換術後の歩行効率は改善する	JOSKAS 45巻3号 Page765-768	Original Article
36	末光 源児	整形外科	患肢を温存し得た壊死性筋膜炎の1例	中国・四国整形外科学会雑誌 32巻1号 Page77-81	Case report
37	藤原 龍史	整形外科	香川県における脊椎・脊髄損傷の受診調査(第三報)	中国・四国整形外科学会雑誌 32巻1号 Page33-37	Original Article
38	三宅啓介	脳神経外科	悪性神経膠腫における術中MRI検査、5-ALA検査、PET検査を用いた手術支援システムの検討	CI研究 41(3-4), 131-141, 2020	Original Article
39	三宅啓介	脳神経外科	高齢神経膠芽腫に対する集学的治療と予後予測因子の検討	GERIATRIC NEUROSUGERY 33, 53-59, 2020	Others
40	岡内正信	脳神経外科	重症くも膜下出血患者に対する積極的平温療法	脳血管攣縮 35, 20-25, 2020	Original Article
41	土肥 洋一郎, 杉元 幹史	泌尿器科	【今だからこそ考える限局性前立腺癌に対する治療】監視療法(解説/特集)	泌尿器外科	Review
42	松岡 祐貴, 杉元 幹史	泌尿器科	【前立腺がんの放射線療法 薬物療法 ロボット手術 最新情報をお伝えします】(chapter 2)前立腺がんのtreatment 進行性(転移のある)前立腺がんの初期薬物療法(解説/特集)	Uro-Lo: 泌尿器Care & Cure	Review
43	加藤 琢磨, 杉元 幹史	泌尿器科	【前立腺癌治療の合併症・副作用マネジメント】監視療法 メンタルケア・複数回生検による合併症(解説/特集)	Prostate Journal	Review
44	田岡 利宜也, 杉元 幹史	泌尿器科	膀胱癌治療の変遷 膀胱温存後の転移性膀胱癌治療に求めるもの 筋層非浸潤性膀胱癌の治療戦略 2nd TURBTとBCG膀胱内注入療法の役割(解説)	西日本泌尿器科	Review

45	常森 寛行, 杉元 幹史	泌尿器科	【高齢患者の泌尿器疾患を診る-転ばぬ先の薬と手術】高齢者に対する手術の適応と限界 泌尿器癌を有する高齢者の治療前評価(解説/特集)	臨床泌尿器科	Review
46	土肥 洋一郎, 杉元 幹史	泌尿器科	【前立腺癌診療update-最新の診断と治療-】診断と治療 Active surveillanceの現状と展望(解説/特集)	日本臨床	Review
47	大日 輝記.	皮膚科	水疱症と口腔病変(前編).	保団連, 52-55, 2021.	Review
48	大日 輝記.	皮膚科	水疱症と口腔病変(後編).	保団連, 44-47, 2021.	Review
49	大日 輝記.	皮膚科	【皮膚疾患と慢性炎症】上皮-免疫微小環境(EIME).	別冊Bio Clinica: 慢性炎症と疾患 10, 36-42, 2021.	Review
50	大日 輝記.	皮膚科	私の視点 バイオ精神病.	皮膚病診療 43, 171, 2021.	Review
51	手塚 純子, 加来洋, 山村 健太郎, 江川 形平, 本田 哲也, 大日 輝記, 梶島 健治.	皮膚科	顕微鏡的神経周囲浸潤を伴った左頬部のモルフェア型基底細胞癌の1例.	臨床皮膚科 74, 411-416, 2020.	Case report
52	大日 輝記, 梶島 健治.	皮膚科	【皮膚アレルギー研究最前線】皮膚のp38MAPキナーゼの活性化は乾癬様皮膚炎をひき起こす.	臨床免疫・アレルギー科 73, 493-499, 2020.	Review
53	大日 輝記.	皮膚科	アトピー性皮膚疾患とepithelial-immune microenvironment(EIME).	アレルギー 69, 662-668, 2020.	Review
54	大日 輝記.	皮膚科	【水疱をどう診る?どう治す?】初診時、自己免疫性水疱症を考えた皮膚疾患.	Derma, 63-69, 2020.	Review
55	勢川 博雄	放射線部	MR 検査に利用するための「脳葉, 脳回の脳神経線維ステレオカラー解剖図」の作成	日本放射線技術学会雑誌	Review
56	勢川 博雄	放射線部	放射線教育のための骨標本ステレオ解剖図を利用したステレオ解剖図の作成	日本放射線技術学会雑誌	Original Article
57	田井達也	薬剤部	抗菌薬適正使用支援活動によるデ・エスカレーションの向上が血液培養陽性患者アウトカムに及ぼす影響	「医療薬学」Vol 46, No 6, :314-322 June 2020	Original Article
58	森澤 紀彦	薬理学	ミネラルコルチコイド受容体を介する高血圧性臓器障害(特集 高血圧診療 update : 診断・治療の最新動向)	日本臨床 = Japanese journal of clinical medicine, 78(2): 190 - 195, 2020	Others
59	森澤紀彦	薬理学	元素の種類と微量元素	腎臓内科: 11(2): 191-196, 2020	Review

60	服部真依	薬理学	微量元素と栄養素	腎臓内科：11(2): 197-202, 2020	Review
61	森澤紀彦	薬理学	加齢と高血圧	腎臓内科:12(2) 165-170, 2020 Aug	Review
62	木戸口慧	薬理学	慢性腎臓病における酸化ストレス進展機序 慢性腎臓病における一酸化窒素(NO)	臨床透析:36(12) 42-47, 2020 Nov.	Review
63	山崎大輔	薬理学	薬物治療の進歩	日腎会誌 62(3): 144-149, 2020.	Review
64	北田研人	薬理学	血圧調節のメカニズム	内科総合誌M.P. 37(7); 1016-1023, 2020.7	Review
65	西山 成	薬理学	MRB, SGLT2阻害薬, ARNI	カレントセラピー volume 39, pages86-89(2021)	Review
66	木戸口慧	薬理学	腎臓における塩分-尿素代謝クロストーク	腎臓内科, 13(2):208-215, 2021	Review
67	西山成	薬理学	(プロ)レニン受容体をターゲットとした癌に対する新規治療法の開発	臨床薬理, 52(2); 31-33, 2021. 3	Review

計67件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の主な内容1 医学部倫理委員会の趣旨及び設置<ul style="list-style-type: none">(1) 趣旨(2) 設置2 委員会の組織等<ul style="list-style-type: none">(1) 組織(2) 委員長及び副委員長(3) 専門委員等3 委員会の任務4 審査の観点5 審査の開始<ul style="list-style-type: none">(1) 審査の開始(2) 他の研究機関が実施する研究について(3) 審査方法の定義(4) 審査方法の決定6 通常審議<ul style="list-style-type: none">(1) 委員会の開催(2) 委員会の成立要件等(3) 審査の判定及び通知7 迅速審査<ul style="list-style-type: none">(1) 迅速審査の実施(2) 審査の判定及び通知(3) 報告事項8 指針外審査<ul style="list-style-type: none">(1) 指針外審査の実施(2) 審査の判定及び通知9 サージカルトレーニング審査<ul style="list-style-type: none">(1) サージカルトレーニング審査の実施(2) 審査の判定及び通知10 人を対象とする生命科学・医学系研究に該当しない研究等について11 議事要旨等の保存及び公表<ul style="list-style-type: none">(1) 議事要旨等の保存(2) 議事要旨等の公表12 委員の守秘義務	

1 3 教育・研修について 1 4 その他	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○有・無
<p>・規定の主な内容</p> <p>香川大学医学部に臨床研究利益相反委員会を置き、臨床研究に係る利益相反審査自己申告書により、利益相反のマネジメントを行う。自己申告書により利益相反が明らかな場合、委員会は、自己申告書に添付された研究計画書等に照らし合わせて、適正な臨床研究が実施可能かどうかについて審議し、当事者への助言・指導・勧告等を行う。</p> <p>なお、審議に際し、関係する各倫理審査委員会の意見を聴取することができる。また、必要に応じて更なる情報収集、調査及びフォローアップも行うこととしている。</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	<p>年14回</p> <p>※定期開催ではなく、利益相反審査自己申告書により利益相反が明らかな場合にのみ随時開催することとしている。</p>

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
<p>・研修の主な内容</p> <p>研究者等の臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識の向上を目的として、令和2年6月に「医学部倫理委員会教育訓練講習会」をeラーニングにより実施した。</p> <p>また、令和2年12月に、研究者等のヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理、その他ヒトゲノム・遺伝子解析研究の実施に必要な知識の向上を目的とする「ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会教育訓練講習会」をeラーニングにより実施した。</p>	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

下記の研修統括者を代表とする指導医の適切な指導の下、各専門領域の高度医療に関する研修指針に基づく体系的な指導を行うとともに、多職種からなる定期的なカンファレンス、医療安全・感染制御及び医療倫理等の講習会等の参加機会を確保し、チーム医療や安全管理等の実践教育を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	61人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
村尾 孝児	内分泌代謝内科	教授	31年	
門脇 則光	血液内科	教授	35年	
土橋 浩章	膠原病・リウマチ内科	准教授	29年	
金地 伸拓	呼吸器内科	講師	23年	
南野 哲男	循環器内科 抗加齢血管内科	教授	33年	
祖父江 理	腎臓内科	講師	17年	
正木 勉	消化器内科	教授	31年	
出口 一志	脳神経内科	准教授	35年	
舛形 尚	総合内科	教授	35年	
辻 晃仁	腫瘍内科	教授	30年	
大日 輝記	皮膚科	教授	25年	
中村 祐	精神科神経科	教授	35年	
日下 隆	小児科	教授	30年	
金西 賢治	周産期科女性診療科	教授	28年	

堀井 泰浩	心臓血管外科	教授	33年
岡野 圭一	消化器外科	教授	29年
横見瀬 裕保	呼吸器外科	教授	40年
紺谷 桂一	乳腺内分泌外科	准教授	38年
下野 隆一	小児外科	准教授	33年
山本 哲司	整形外科	教授	38年
杉元 幹史	泌尿器・副腎・腎移植外科	教授	33年
三宅 啓介	脳神経外科	准教授	28年
鈴間 潔	眼科	教授	28年
星川 広史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	31年
西山 佳宏	放射線診断科	教授	31年
柴田 徹	放射線治療科	教授	33年
白神 豪太郎	麻酔・ペインクリニック科	教授	37年
永竿 智久	形成外科・美容外科	教授	31年
羽場 礼次	病理診断科	准教授	31年
小松原 悟史	リハビリテーション科	講師	22年
隈元 謙介	臨床遺伝ゲノム診療科	准教授	26年
三宅 実	歯・顎・口腔外科	教授	34年
黒田 泰弘	救命救急センター	教授	37年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

看護師のエキスパート研修（感染管理、脳卒中リハビリテーション看護、手術看護、糖尿病看護、新生児集中ケア）

・研修の期間・実施回数

実施回数 13 回

・研修の参加人数

延べ参加人数 188 名

・研修の主な内容

病棟にて薬剤師が主に看護職員を対象に医薬品の適正使用について指導を行う

・研修の期間・実施回数

適宜 年数回

・研修の参加人数

各病棟 10～20 名程度

・研修の主な内容

臨床検査技師を対象とする勉強会

・研修の期間・実施回数

週 1 回

・研修の参加人数

20～25 名

・研修の主な内容

診療放射線技師を対象とする放射線部勉強会

・研修の期間・実施回数

適宜 月 2 回程度 令和 2 年度 16 回実施

・研修の参加人数

約 30 名

・研修の主な内容

移乗動作・体位変換、呼吸リハビリ・呼吸介助方法・離床

・研修の期間・実施回数

年 2 回

・研修の参加人数

約 10 名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
看護補助者研修：安全管理、役割と責務、感染管理、接遇・倫理、移動介助（歩行・車いす・ストレッチャー・スライディングボード）事故防止の心構え、事故発生時の対応
- ・研修の期間・実施回数
5回
- ・研修の参加人数
延べ参加人数 145名

- ・研修の主な内容
病棟にて薬剤師が主に看護職員を対象に麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の管理について指導を行う
- ・研修の期間・実施回数
適宜 年数回
- ・研修の参加人数
各病棟 10～20名程度

- ・研修の主な内容
放射線部に所属する全職種責任者による放射線部安全運営会議
- ・研修の期間・実施回数
月1回 令和2年度10回実施
- ・研修の参加人数
約10名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
抗がん剤・検査値の活用に関する勉強会
- ・研修の期間・実施回数
適宜 年数回
- ・研修の参加人数
各医療機関（薬局等） 20～30名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 門脇 則光	
管理担当者氏名	総務課長 横川 利子 薬剤部長 小坂 信二	医事課長 和氣 明彦 放射線部長 西山 佳宏

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医学部医事課
		各科診療日誌	医学部医事課
		処方せん	倉庫
		手術記録	電子カルテ
		看護記録	電子カルテ
		検査所見記録	電子カルテ
		エックス線写真	電子カルテ
		紹介状	電子カルテ
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	医学部総務課
		高度の医療の提供の実績	医学部医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部総務課
		高度の医療の研修の実績	医学部総務課
		閲覧実績	医学部医事課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医学部医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医学部医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医学部医事課 医療安全管理部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医学部総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医学部医事課 総合地域医療連携センター 医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医学部総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	医学部総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務グループ		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務グループ		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	医学部事務部長 中島 一浩		
閲覧担当者氏名	医事課長 和氣 明彦		
閲覧の求めに応じる場所	管理棟1階情報公開室		
閲覧の手続の概要 閲覧日の2週間前までに所定の申込書により申し込み、閲覧承諾書により申請者に通知される。 閲覧には担当者が立ち会い、諸記録の貸し出し及びコピーは行えない。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容：別紙①のとおり 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（☑・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。 2. 安全管理のための医療事故等の院内報告制度の整備に関すること。 3. 安全管理に関する教育及び研修に関すること。 4. 医療事故の防止及び対策に関すること。 5. 安全対策マニュアルの実施状況の検証に関すること。 6. 医療事故発生時の対応方法の整備(事故調査を含む。)に関すること。 7. 医事問題に係る対策に関すること。 8. 分析されたインシデントレポートの情報を、速やかに職員に周知及び実行させること。 9. その他医療事故を含む安全管理に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年35回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：別紙②のとおり 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（☑・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. インシデントレポートの収集・分析：毎日レポートを確認後、現場へ事実確認を行う。重要事例については現場にイベントレビューを記載依頼し、その後現場と共に分析を行う。レベル3 b以上のインシデントを含む重要事例は、医療安全管理部長・病院長へ報告する。 2. 効果的な安全対策の立案：現場と共に行った分析の結果、立案した安全対策を医療安全管理部員会議で審議する。 3. 安全対策を現場にフィードバックし、その後、現場巡視し実施状況を確認し評価する。（PDCAサイクルを回す） 	

4. 全死亡退院事例を検証し、詳細な検討が必要であると認めた事例には当該科へ報告書の提出を依頼し、医療安全管理部員会議・医療安全管理委員会で審議する。
5. 安全管理の委員会の運営：医療安全管理部員会議・医療安全管理委員会・リスクマネージャー会議の運営（資料作り・関係部署との調整など）
6. 職員研修の企画・運営：安全研修の企画運営と採用者・異動者に対する初期安全研修の実施、発生したインシデントに対する教育指導として研修を企画・運営。
7. Safety ニュース発行（毎月）：その月のトピックスを掲載し職員に注意喚起している。
8. 安全対策マニュアル（指針を含む）の見直し（年1回）：最新の医療水準に基づいて内容の見直しを毎年実施している。（RM 全員と共に行っている。）
9. 医療安全に関する患者からの相談対応。

（注）前年度の実績を記入すること。

1. 安全管理のための基本方針

本院は、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整え、各医療現場において安全確実な医療を実践・教育する。医療事故の絶無を期して、現場における責任体制を明確にし、医療事故防止のための安全管理体制を病院全体で取り組み確立する。

1) 安全管理のための委員会

安全管理及び医療事故の防止・対策について審議するため、医療安全管理委員会を置く。

2) 医療安全管理責任者

医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者を統括するため、医療安全管理責任者を置く。

3) 医療安全管理部

医療安全管理委員会が講じた安全対策をリスクマネジャーを通じて速やかに実践徹底させると共に、医療安全管理委員会に安全対策を提言する。

4) 専任リスクマネジャー

病院長から委譲された権限に基づき、本院全体の医療事故防止及び安全管理の任に当たらせるため、医療安全管理部に専任リスクマネジャーを置く。

5) リスクマネジャー

医療安全管理委員会及び医療安全管理部が講じた安全対策等の情報を、各医療現場に浸透させるため、また、各医療現場で発生した医療事故及びインシデントの報告及び医療事故防止に関する問題点等を医療安全管理部及び医療安全管理委員会の審議に反映させるため、各科(部)等にリスクマネジャーを置く。

6) 安全管理のための職員教育及び研修

医療事故防止手法などの安全管理に関する教育を行うと共に、職員研修を開催する。

7) 医療事故発生時の対応

医療事故に関する情報は、速やかに、病院長及び医療安全管理部長に連絡し、報告書を提出する。

医療安全管理委員会は報告書に基づいて、内容・実状を把握し、対応・改善を協議する。

8) 安全対策マニュアル

病院関係職員の医療事故防止のため、「安全対策マニュアル」を作成し、周知徹底を図る。なお、状況等により随時見直しを行うものとする。

9) インフォームド・コンセントに係る責任者

インフォームド・コンセントを適切に実施するための手順の作成、手順の遵守状況の確認、指導・研修、その他適切な実施に関することを行うため、インフォームド・コンセントに係る責任者を置く。

10) 診療録管理責任者

診療録その他の診療に関する記録の適切な管理を行うために診療録管理責任者を置く。

11) 医薬品安全管理責任者

本院全体の医薬品の安全使用の任に当たらせるため、薬剤部に医薬品安全管理責任者を置く。

12) 医療機器安全管理責任者

本院全体の医療機器の安全使用の任に当たらせるため、ME機器管理センターに医療機器安全管理責任者を置く。

13) 医療放射線安全管理責任者

本院全体の医療放射線の安全使用の任に当たらせるため、放射線部に医療放射線安全管理責任者を置く。

14) 診療情報の共有

医療従事者からの十分な説明に基づいて、患者自身が疾病や診療内容について理解・納得・同意が得られるように情報を共有する。患者さんと医療従事者との間で患者さんの診療情報を共有し、医療上の意思決定や治療効果の向上を図ることができるようにする。また医療従事者間でも患者の診療情報を共有し、安全で質の高い医療の実現を目指すものとする。

15) 患者相談

患者さんからの医療安全管理に関する相談に対して、誠実に対応する。

16) その他

安全管理のための方策を検討し、医療事故防止に努める。

本指針は、患者さん及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じるものとする。

令和2年度安全管理のための職員研修実施報告

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
1	卒後臨床研修 オリエンテーション	3月27日 新採用研修医	30名	120分	講義「当院の患者安全管理体制について、インシデントレポートの書き方と事例分析、およびPDA操作について」 講師 医療安全管理部 白神医療安全管理部長・村上GRM・朝倉GRM・松本GRM
2	卒後臨床研修 オリエンテーション	3月31日 新採用研修医	30名	120分	講義「CV(中心静脈カテーテル)挿入手技実習」 「CV(中心静脈カテーテル)挿入マニュアル」 実習「シミュレーターを用いたCV(中心静脈カテーテル)挿入手技実習」 講師 医療安全管理部 村上専任GRM 麻酔・ペインクリニック科 岡部 悠吾 日本コヴィディエン株式会社
3	新採用者 初期安全研修	4月1日 新採用者 (医師)	51名	30分	講義「医療安全管理体制について」 講師 医療安全管理部 村上専任RM
4	新採用者 初期安全研修	4月1日 平成31年度中途採用医師	1名	30分	講義「医療安全管理体制について」 講師 医療安全管理部 村上専任RM
5	新採用者 初期安全研修	4月3日 新採用者 (看護師)	50名	60分	講義「香川大学医学部附属病院における安全管理体制について」 講師 医療安全管理部 岡崎専任RM
6	新採用者 初期安全研修	4月10日 新採用者 (副院長)	3名	30分	講義「安全管理」 講師 医療安全管理部 岡崎専任RM
7	新採用者 初期安全研修	4月13日 新採用者 (事務職員・事務補佐員・技 能補佐員・視能訓練士・歯 科衛生士・理学療法士・言 語聴覚士・作業療法士・臨 床工学技師・薬剤師・栄養 士・外注職員アビリティ・ニ イ・文教)	18名	60分	講義「香川大学医学部附属病院における安全管理体制について」 「当院における医療関連感染対策」
講師 医療安全管理部 岡崎専任RM・感染制御部 間嶋師長					
9	新採用者 初期安全研修	4月16日 中途採用者 (看護補助者)	5名	30分	講義「香川大学医学部附属病院における安全管理体制について」 講師 医療安全管理部 岡崎専任RM
10	新リスクマネジャー研修	4月21日 リスクマネジャー (資料配付・個別説明)	15名	-	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM ※新型コロナウイルス感染症対策として資料配付・個別説明での研修とした。
11	安全管理研修(講義)	4月27日 附属病院で診療に従事する 全職員(事務系職員・調理 師・看護補助者除く) (e-learning)	1,295名	30分	講義「今日からはじめよう!診療録の改善!!」 講師 診療情報管理室長 横井英人 ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
12	新採用者 初期安全研修	5月1日～ 6月5日 新採用者 (医師) (e-learning)	10名	30分	講義「医療安全管理体制について」 講師 医療安全管理部 村上専任RM ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
13	新採用者 初期安全研修	5月18日 新採用者(1名) 中途採用者(2名) (課長・栄養士・薬剤師) (ビデオ上映会)	3名	60分	講義「香川大学医学部附属病院における安全管理体制について」 「当院における医療関連感染対策」 講師 医療安全管理部 岡崎専任RM・感染制御部 間嶋師長
14	安全管理研修(講義)	5月19日 附属病院で診療に従事する 全職員 (e-learning)	1,390名	30分	講義「ハイリスク薬に関する研修」 「画像診断レポート等の確認に関する安全対策」 講師 医療安全管理部 白神医療安全管理部長・村上GRM・元木GRM・岡崎GRM ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
15	安全管理研修(講義)	6月9日 附属病院で診療に従事する 全職員 (e-learning)	1,388名	30分	講義「当院における抗菌薬適正使用と院内感染対策」 講師 薬剤部 感染制御認定薬剤師 田井 達也 感染制御部 感染対策室 感染管理認定看護師 間嶋 由美子 ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
16	新採用者 初期安全研修	6月25日 中途採用者 (臨床検査師・技術補佐員・ 事務補佐員・外注職員クエア パキ・ニイ・香川) (ビデオ上映会)	6名	60分	講義「香川大学医学部附属病院における安全管理体制について」 「当院における医療関連感染対策」 講師 医療安全管理部 岡崎専任RM・感染制御部 間嶋師長
17	新採用者 初期安全研修	7月3日～ 8月3日 新採用者(5名) 中途採用者(1名) (医師) (e-learning)	6名	30分	講義「医療安全管理体制について」 講師 医療安全管理部 村上専任RM ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容	
18	安全管理研修(講義)	7月21日	附属病院で診療に従事する全職員(事務系職員・調理師・看護補助者除く) (e-learning)	1,239名	30分	講義 ①「ハイリスク薬の使用上の注意について」 ②「麻薬の適正管理について」 講師 ①薬剤部 医薬品情報室 室長 谷 久美子 ②薬剤部 麻薬室 馬場 可南美 ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
19	新採用者 初期安全研修	7月21日	中途採用者 (臨床検査技師・事務補佐員・外注職員がエプキ・シティ・香川) (ビデオ上映会)	9名	60分	講義 「香川大学医学部附属病院における安全管理体制について」 「当院における医療関連感染対策」 講師 医療安全管理部 岡崎専任RM 感染制御部 間嶋師長
20	新採用者 初期安全研修	9月1日～ 10月31日	新採用者 (医師) (e-learning)	1名	30分	講義 「医療安全管理体制について」 講師 医療安全管理部 村上専任RM ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
21	安全管理研修(講義)	9月17日	附属病院で診療に従事する全職員のうち、 医療安全管理委員、部員、RM	59名	60分	講義 「実際の裁判例に学ぶ医療紛争対応のポイント～診療記録を中心に～」 講師 すみよし小田法律事務所 弁護士・医師 小田祐資 ※新型コロナウイルス感染症対策として、当日受講者を限定して実施
		9月28日～ 3月31日	附属病院で診療に従事する全職員(当日受講者以外) (e-learning)	1,313名	60分	※新型コロナウイルス感染症対策として医療安全管理委員、部員、RM以外の対象者はe-learningで実施
22	新採用者 初期安全研修	10月15日	中途採用者 (事務補佐員、外注職員・シティ) (ビデオ上映会)	4名	60分	講義 「香川大学医学部附属病院における安全管理体制について」 「当院における医療関連感染対策」 講師 医療安全管理部 岡崎専任RM 感染制御部 間嶋師長
23	安全管理研修(講義)	10月20日	附属病院で診療に従事する全職員 (e-learning)	1,374名	30分	講義 「新型コロナウイルス 院内持ち込み・感染防止のためにできること」 「細菌検査の検体採取」 講師 検査部 感染症検査室 ICMT 西山 恵子 ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
24	新採用者 初期安全研修	11月1日～ 12月31日	新採用者 (医師) (e-learning)	1名	30分	講義 「医療安全管理体制について」 講師 医療安全管理部 村上専任RM ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
25	安全管理研修(講義)	11月10日～ 3月31日	附属病院で診療に従事する全職員(事務系職員・調理師・看護補助者除く) (e-learning)	1,207名	30分	講義 「いのちのエンジニア ～COVID-19重症患者治療におけるECMOと臨床工学技士の紹介～」 講師 ME機器管理センター 臨床工学技士長 光家 努 ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
26	新採用者 初期安全研修	12月17日	中途採用者 (事務補佐員、外注職員・シティ) (ビデオ上映会)	5名	60分	講義 「香川大学医学部附属病院における安全管理体制について」 「当院における医療関連感染対策」 講師 医療安全管理部 岡崎専任RM 感染制御部 間嶋師長
27	安全管理研修(講義)	12月15日～ 3月31日	附属病院で診療に従事する全職員(事務系職員・調理師・看護補助者除く) (e-learning)	1,197名	30分	講義 「糖尿病患者における管理上の注意点」 講師 内分泌代謝内科 医師 井端 智裕 ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
28	新採用者 初期安全研修	～12月24日	育児休業復帰者 (看護師) (DVD受講)	26名	—	講義 「育児休業復帰者研修・新型コロナウイルス対策」 講師 医療安全管理部 岡崎専任RM 感染制御部 間嶋師長
29	安全管理研修(講義)	1月19日	附属病院で診療に従事する全職員(事務系職員・調理師・看護補助者除く) (e-learning)	994名	30分	講義 「診療用放射線の安全利用のための研修」 「MRI検査の安全管理」 講師 公益社団法人 日本医学放射線学会 ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
30	新採用者 初期安全研修	1月21日	中途採用者 (事務補佐員、外注職員・シティ) (ビデオ上映会)	3名	60分	講義 「香川大学医学部附属病院における安全管理体制について」 「当院における医療関連感染対策」 講師 医療安全管理部 岡崎専任RM 感染制御部 間嶋師長
31	新採用者 初期安全研修	1月5日～ 1月31日	新採用者 (医師) (e-learning)	5名	30分	講義 「医療安全管理体制について」 講師 医療安全管理部 村上専任RM ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
32	安全管理研修(講義)	2月22日 3月31日	附属病院で診療に従事する全職員(事務系職員・調理師・看護補助者除く) (e-learning)	1,015名	30分	講義 「経腸栄養分野における新規格製品に関する注意点」 「令和2年度医療機器インシデント報告(4月～11月)」 講師 ME機器管理センター 臨床工学技士長 光家 努 ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
33	新採用者 初期安全研修	2月18日	中途採用者 (事務補佐員、外注職員・シティ) (ビデオ上映会)	3名	60分	講義 「香川大学医学部附属病院における安全管理体制について」 「当院における医療関連感染対策」 講師 医療安全管理部 岡崎専任RM 感染制御部 間嶋師長

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
34	3月10日～ 3月31日	新採用者 (医師) (e-learning)	2名	30分	講義 「医療安全管理体制について」
					講師 医療安全管理部 村上専任RM ※新型コロナウイルス感染症対策としてe-learningで実施
35	3月24日	中途採用者 (事務補佐員、外注職員-チ イ) (ビデオ上映会)	2名	60分	講義 「香川大学医学部附属病院における安全管理体制について」 「当院における医療関連感染対策」
					講師 医療安全管理部 岡崎専任RM 感染制御部 間嶋師長

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	㊟・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容：別紙③のとおり 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の調査、予防及び防止に関すること。 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 3. 感染症発生時の措置に関すること。 4. 院内職員の教育及び啓蒙に関すること。 5. 消毒剤の使用に関すること。 6. HIV感染及びAIDSに係る職員の教育・啓蒙に関すること。 7. HIV・AIDS診療に従事する人材の育成に関すること。 8. HIV・AIDS診療に係る県内各拠点病院との連携の実施に関すること。 9. その他感染予防に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年32回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：別紙④のとおり 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (㊟・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 感染対策室員会議、感染制御委員会で、MRSA等の耐性菌検出状況と共に、感染予防策の実施状況及び、感染拡大防止を図るための課題の検討・報告を行っている。室員会議・委員会における報告・決定事項は、職種横断的な構成員により各部署へ周知される。 耐性菌検出時や問題となる感染症発生時には、ICNが現場に出向き、適切な対策が実施できているかを確認し、指導を行っている。また、ICTによる感染症ラウンド時においても、現場の感染対策の実施状況の評価を行っている。 アウトブレイク発生時や重大な感染事例発生時には、ICTで対策を検討し、ICT、リンクドクター、リンクナースが協働し対応にあたる。病院長、感染制御委員会、各関係会議等へ報告は適宜行う。 院内感染予防マニュアルは、適宜改訂を行っており、電子カルテから閲覧できるよう整備している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

感染対策のための指針

香川大学医学部附属病院は、病院の理念に基づき、感染防止および感染制御の対策に取り組むことで、患者および病院職員に安全で快適な医療環境を提供する。

そのための基本的な考え方を以下に定める。

1. 感染対策に関する基本的な考え方

医療関連感染の発生を未然に防ぎ、感染症発生時に拡大を防止するためには、その原因を速やかに特定し、早期に制圧することが重要である。そのため、感染防止対策を職員全員が理解実践し、病院の理念に則った医療が提供できるよう取り組む。

2. 感染対策の推進のために必要な基本方針

職員は、院内感染予防マニュアルに沿って、手指衛生の徹底、マスク、手袋等の着用など、常に感染予防対策の遵守に努める。

職員は、自らが感染源とならないよう、定期健康診断を受診し、健康管理に努める。
院内感染予防マニュアルは、定期的に見直しを行い、病院職員へ周知徹底を図る。

3. 感染対策のための委員会等の組織に関する基本的事項

香川大学医学部附属病院感染制御委員会規定に基づき、感染制御委員会を設置し、医療関連感染の調査、感染予防の実施、発生時の措置等に関する審議・決定を行う。

医療関連感染等の発生防止に関する業務を迅速かつ機能的に実行するために、感染対策室を設置する。

4. 感染対策のための職員研修に関する基本方針

感染防止対策の基本的な考え方および防止対策に対する意識の向上、抗菌薬適正使用の推進を図るために、全病院職員対象の研修会を年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。研修の開催結果を記録し、保存する。

5. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

耐性菌および市中感染症等の院内発生に伴う感染拡大を防止するため、感染症発生状況を感染制御委員会および感染対策室を通じて、病院職員に定期的に通知する。また、感染管理システムにより、随時情報提供を行う。

6. 医療関連感染発生時の対応に関する基本方針

医療関連感染が発生した部署の病院職員は、直ちに感染対策室へ報告する。

感染対策室は、状況および対応を病院長ならびに感染制御委員会に報告する。感染対策室および発生部署の病院職員は、速やかに発生の原因を究明し、改善策を立案し実施する。

感染対策室は、発生状況および改善策の実施結果について、感染制御委員会、電子メールおよび紙媒体を通じて全職員に速やかに周知する。

7. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、院内感染予防マニュアルおよびホームページに掲載する。

付 則

この指針は、平成 19 年 7 月 1 日より施行する。

平成 21 年 3 月 1 日より一部改定、施行する。

平成 23 年 7 月 1 日より一部改定、施行する。

平成 25 年 12 月 1 日より一部改定、施行する。

平成 30 年 12 月 1 日より一部改定、施行する。

令和2年度 感染対策採用者・異動者・復帰者職員研修(医師)

No	件名	対象者	人数	実施日	場所
1	令和2年度卒後臨床研修オリエンテーション 院内における感染予防策	新規採用 研修医	30	R2.3.27,30	研修医カンファ室
2	令和2年度医師採用時オリエンテーション 当院における感染対策	新規採用 医師	51	R2.4.1	講義棟2階大D
3	令和2年度第2回採用者・異動者研修 (e-learningによる研修)	採用者・異 動者研修 対象者	10	R2.5.1~6.5	e-learning
4	令和2年度第3回採用者・異動者研修 (e-learningによる研修)	採用者・異 動者研修 対象者	6	R2.7.3~8.3	e-learning
5	令和2年度第4回採用者・異動者研修 (e-learningによる研修)	採用者・異 動者研修 対象者	1	R2.9.1~10.31	e-learning
6	令和2年度第5回採用者・異動者研修 (e-learningによる研修)	採用者・異 動者研修 対象者	2	R2.11.1~ 12.31	e-learning
7	令和2年度第6回採用者・異動者研修 (e-learningによる研修)	採用者・異 動者研修 対象者	5	R3.1.5~1.31	e-learning
8	令和2年度第7回採用者・異動者研修 (e-learningによる研修)	採用者・異 動者研修 対象者	2	R3.3.10~3.25	e-learning

令和2年度 感染対策採用者・異動者・復帰者職員研修(看護師対象)

No	件名	対象者	人数	実施日	場所
1	感染管理体制 当院における感染防止対策	新人看護師 育児休暇復 帰者	50	R2.4.3	西7階カンファレンスルーム
2	当院における院内感染対策	看護師(副師 長昇任)	3	R2.4.10	管理棟4F会議室2
3	静脈注射における感染予防策	看護師(1年 目)	87	R2.7.6~ 8.7	オンデマンド研修
4	当院における院内感染対策	看護師	34	R2.7.22	管理棟4F会議室1・2
5	当院における院内感染対策 新型コロナウイルス対策	看護師(育児 休暇復帰者)	26	~R2.12.24	DVD受講

令和2年度 感染対策採用者・異動者・復帰者職員研修(看護補助者対象)

No	件名	対象者	人数	実施日	場所
1	院内における感染予防策	看護補助者(4月採用)	5	R2.4.16	西7階カンファレンスルーム
2	院内における感染予防策	看護補助者(中途採用)	45	R2.7.16	管理棟4F会議室①

令和2年度 感染対策採用者・異動者・復帰者職員研修(コメディカル・事務対象)

No	件名	対象者	人数	実施日	場所
1	院内における感染予防策	事務・メディカルスタッフ4月採用時研修	18	R2.4.13	臨床講義棟2階
2	院内における感染予防策	第2回採用者・異動者研修	3	R2.5.18	感染対策室カンファレンスルーム
3	院内における感染予防策	第3回採用者・異動者研修	6	R2.6.25	感染対策室カンファレンスルーム
4	院内における感染予防策	第4回採用者・異動者研修	9	R2.7.21	感染対策室カンファレンスルーム
5	院内における感染予防策	第5回採用者・異動者研修	4	R2.10.15	感染対策室カンファレンスルーム
6	院内における感染予防策	第6回採用者・異動者研修	5	R2.12.17	感染対策室カンファレンスルーム
7	院内における感染予防策	第7回採用者・異動者研修	3	R3.1.21	感染対策室カンファレンスルーム
8	院内における感染予防策	第8回採用者・異動者研修	3	R3.2.18	感染対策室カンファレンスルーム
9	院内における感染予防策	第9回採用者・異動者研修	2	R3.3.24	感染対策室カンファレンスルーム

令和2年度感染管理 エキスパート研修

	年月日	時間	テーマ	対象者	参加者
第1回	R2.7.22	45分	現場ですぐに使える感染対策	全病棟の看護師	34名
第2回	R2.8.11	50分	抗菌薬適正使用 はじめの一步！	全病棟の看護師	19名
第3回	R2.9.24	55分	早期発見！敗血症	全病棟の看護師	36名

令和2年度 感染対策職員研修

NO.	件名	対象者	人数	出席率	実施日	場所
1	当院における抗菌薬適正使用と院内感染対策	全職員 (1,388)				
	e-learning					
2	当院における抗菌薬適正使用と院内感染対策	全職員 (1,374)				
	e-learning					

令和2年度 その他研修

NO.	内 容	対象者	人数	実施日	場 所
1	病院給食の衛生管理 手洗い実習	臨床栄養部	13	R2.10.12	スキルスラボ2階
2	清掃業務に必要な感染対策の 基本	清掃委託業者	56	R3.2.4,5	スキルスラボ2階
3	リネン従事者における感染対策	洗濯委託業者	10	R3.2.10	洗濯部

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	㊟・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回+採用時+適宜
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 医薬品の安全使用を目的とし、各病棟職員または病院職員全体を対象とした研修を行っている。 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (㊟・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用と購入 2. 医薬品の管理 3. 投薬指示と調剤 4. 患者に対する服薬指導 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い(収集・提供) 6. 他施設との連携の各業務について適正に実施している。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (㊟・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤部ニュース(月1回)を全診療科・部に配布している。 2. 急を要する連絡は文書と院内Webで通知している。 3. 薬事委員会で院内採用薬の見直しを行っている。 4. 院内での副作用発生事例については情報を収集し、PMDAおよび当該医薬品メーカーへ報告を行っている。 5. 薬事委員会(医薬品安全管理に関する委員会)を設置、年4回開催している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	㊟・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年約200回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 特定保守管理医療器（人工心肺装置及び補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・閉鎖式保育器）を中心に関連する部署、職員等を対象に新規導入の医療機器や使用機器の研修計画を年度毎に立て計画的に実施している。 内容は使用上における使用方法や注意事項・運用方法など現場と相談し行っている。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （ ㊟・無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 機種別に保守点検の周期を設け、定期的に点検を実施し、記録を保存している。 業務委託による保守点検においては実施状況等の記録を保存し、管理状況を把握している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ㊟・無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器に関わるインシデントや運用について必要に応じてリスクマネージャー会議で協議し周知徹底を行っている。 また、対象部署が限局される事項の内容やPMDA（医療機器）回収情報など、その都度通知文を回覧し周知徹底している。 院内ネットワークK-MINDにてマニュアル、添付文書、ニュース、お知らせを掲載している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☑・無
<p>・責任者の資格(医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、高難度新規医療技術等評価部、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門、高難度新規医療技術等評価部、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括させる医療安全管理責任者を配置し、統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☑(8名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>1回/月、薬剤部ニュース、1回/3ヶ月、DIニュースを発行し、各診療科・各部署に配布して記名により周知状況を確認している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認薬剤は未承認新規医薬品等評価部門での審査を必須としている。禁忌薬剤は系統的にチェックをかけて注意・警告している。禁忌病名は1回/月 薬品名と病名を抽出し、表にして各診療科・各部署に配布し記名により周知状況を確認している。</p> <p>・担当者の指名の有無(☑・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☑・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・☑ ※マニュアルで代用)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>2016年9月に作成したインフォームド・コンセントに関する規定(マニュアル)において、説明内容・説明方法を新しく設定し、2016年11月の全職員対象の研修会において周知した。</p>	

<p>同時に、規定に定めた雛形に沿った説明・同意文書の作成を行うように指導した。</p> <p>規定（マニュアル）については、適宜改訂を行っている。</p> <p>説明・同意文書を新規に作成又は修正する場合には、規定に定められた事項が遵守されているかインフォームドコンセント委員会にて確認している。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	④・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録等の記載内容については定期的に監査を行い、不十分な事例が認められる場合は当該診療科に通知し、適切な診療録記載が行われるよう指導している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	④・無
<p>・所属職員：専従（5）名、専任（2）名、兼任（21）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（2）名、兼任（8）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（3）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>①病院長の下に組織横断的に院内の安全管理を担い、医療安全管理委員会の審議事項に関して、調査、資料作成等を行うとともに、医療安全管理委員会の審議結果等に基づく安全管理を実施する。</p> <p>②安全管理委員会に対して安全管理に関する提言を行う。</p> <p>③医療安全の確保に資する診療の状況を把握する。</p> <p>④職員の医療安全に関する意識向上の状況確認を行う。</p> <p>モニタリング具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インシデント分析 ・死亡退院事例検証（粗死亡率、真死亡率、術後10日以内死亡率） ・院内急変事例分析（コードブルー、ショックコール、RRS件数） ・転倒転落発生率 ・転倒転落（有害事象発生率、3b、骨折） ・CV穿刺に関する有害事象発生率 ・再手術（24時間以内） ・患者誤認発生率、発生数 	

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（8件）、及び許可件数（8件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ◎高難度新規医療技術の提供の申請内容を確認するとともに、評価委員会に対して、その適否、実施を認める場合の条件等について意見を求める。
 - ◎評価委員会の意見を踏まえ、その適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対しその結果を通知する。
 - ◎高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
 - ◎高難度新規医療技術が適切な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、申請を行った診療科等の遵守状況を確認する。
 - ◎高難度新規医療技術の提供の適否等について決定した時及び申請を行った診療科等の遵守状況を確認した時に、その内容を病院長に報告する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（36件）、及び許可件数（36件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ◎未承認新規医薬品等の申請内容を確認するとともに、評価委員会に対して、その適否及び使用条件等について意見を求める。

◎評価委員会の意見を踏まえ、その適否及び使用条件等について決定し、申請を行った診療科等の長に対しその結果を通知する。

◎未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。

◎未承認新規医薬品が適切な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、申請を行った診療科等の遵守状況を確認する。

◎未承認新規医薬品の使用の適否及び使用条件等について決定した時及び申請を行った診療科等の遵守状況を確認した時に、その内容を病院長に報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：全例報告
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 121 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。
 2. 安全管理のための医療事故等の院内報告制度の整備に関すること。
 3. 安全管理に関する教育及び研修に関すること。
 4. 医療事故の防止及び対策に関すること。
 5. 安全対策マニュアルの実施状況の検証に関すること。
 6. 医療事故発生時の対応方法の整備(事故調査を含む。)に関すること。
 7. 医事問題に係る対策に関すること。
 8. 分析されたインシデントレポートの情報を、速やかに職員に周知及び実行させること。
 9. その他医療事故を含む安全管理に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り ((病院名：徳島大学病院) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：愛媛大学医学部附属病院) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況

過去に承認済みの高難度新規医療技術の場合において、院内の実施体制に大きな変更があった場合には再度申請が必要なことについて、医療安全管理マニュアルの修正、周知の強化を行った。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

安全管理のための基本方針として、「患者さんからの医療安全管理に関する相談に対して誠実に対応する。」と掲げ、医療相談窓口を設け、患者からの相談に対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況：別紙②のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

特定機能病院管理者研修に参加した。

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構 一般病院 3 <3rdG:Ver. 2.0>

評価日：2021年6月25日 認定期間：2019年5月2日～2024年5月1日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

下記 URL にて公表

http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/news/news_c/entry-2518.html (病院サイト)

→ <https://www.report.jcqh.or.jp/detail/id=3849> (日本医療機能評価機構サイト)

・評価を踏まえ講じた措置

入院患者の死亡症例報告ルールが2週間以内となっていたが、より速やかに医療安全管理部へ報告してもらうために、当該期限を48時間以内とした。

また、死亡退院登録時に「48時間以内の死亡症例報告」を注意喚起するメッセージが表示されるようシステムを改修したほか、入力期限前には督促を行い、確実な情報収集に取り組んでいる。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容

香川大学医学部附属病院長選考基準

【求められる資質及び能力】

1. 医師免許を有している者
2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者
3. 病院の管理運営上必要な資質・能力を有している者
4. 教育研究及び診療に対する熱意と優れた業績を有している者

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（・無）

- ・ 公表の方法：香川大学医学部附属病院ホームページ

(<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/ByouintyouSenkou/>)

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無		☑・無		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（☑・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（☑・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（☑・無） ・ 公表の方法：香川大学医学部附属病院ホームページ (http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/ByouintyouSenkou/) 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
真鍋 光輝	理事・副学長（総務・労務担当）	○	学長が指名する理事	☑・無
上田 夏生	医学部長		役職指定	☑・無
村尾 孝児	医学部教授（内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学）		学長が指名する医学部又は医学部附属病院の教職員	☑・無
山本 哲司	医学部教授（整形外科）		学長が指名する医学部又は医学部附属病院の教職員	☑・無
安藤 照文	香川県健康福祉部長		学外の有識者：香川県の保険医療に係る責任者として、豊富な経験と高い識見を有している	有・☑
小西 久典	香川県医師会副会長・医療法人社団小西耳鼻咽喉科医院長		学外の有識者：香川県医師会副会長として、医学・医療について豊富な経験と高い識見を有している	有・☑
千葉 昭	四国電力株式会社取締役会長		学外の有識者：香川大学経営協議会の委員であり、企業経営について、幅広く豊富な経験と高い識見を有している	有・☑

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		⑤・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の運営に関する重要事項を審議 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院の院内Web掲示板に資料を掲載 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (⑤・無) ・ 公表の方法：香川大学ホームページ (https://www.kagawa-u.ac.jp/somu/kisoku/reiki_taikei/r_taikei_16.html) ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有・⑤) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙⑤のとおり			

氏名	委員長	職種	役職
門脇 則光	○	医師	病院長 血液内科長 輸血部長 感染制御部長 感染対策室長 感染症教育センター長
杉元 幹史		医師	副病院長（診療・医療安全担当） 泌尿器・副腎・腎移植科長 医療安全管理部長 特定行為研修センター長 高難度新規医療技術等評価部長 ロボット手術センター長 医療安全管理責任者
辻 晃仁		医師	副病院長（研究担当） 腫瘍内科長 がんセンター長 インフォームド・コンセントに係る責任者
堀井 泰浩		医師	副病院長（経営・評価担当） 心臓血管外科長 心臓血管センター長 材料部長
金西 賢治		医師	副病院長（教育・地域連携担当） 周産期科女性診療科長 総合周産期母子医療センター長 女性外来診療部長 遺伝子診療部長 臨床教育研修管理室長 臨床教育研修支援部長
富山 清江		看護師	副病院長（医療の質管理担当） 看護部長 ワーク・ライフ・バランス支援室長
中島 一浩		事務	副病院長（総務担当） 医学部事務部長
村尾 孝児		医師	内分泌代謝内科長 検査部長 糖尿病センター長 先端医療開発センター長
土橋 浩章		医師	膠原病・リウマチ内科長
金地 伸拓		医師	呼吸器内科長
南野 哲男		医師	循環器内科長 抗加齢血管内科長
祖父江 理		医師	腎臓内科長 血液浄化療法室長
正木 勉		医師	消化器内科長 内視鏡診療部長 臨床栄養部長 医師キャリア支援センター長

氏名	委員長	職種	役職
出口 一志		医師	脳神経内科長
舩形 尚		医師	総合内科長 総合地域医療連携センター長
大日 輝記		医師	皮膚科長
中村 祐		医師	精神科神経科長 子どもと家族・こころの診療部長 認知症疾患医療センター長
日下 隆		医師	小児科長
岡野 圭一		医師	消化器外科長
横見瀬 裕保		医師	呼吸器外科長
紺谷 桂一		医師	乳腺内分泌外科長
下野 隆一		医師	小児外科長
山本 哲司		医師	整形外科長 リハビリテーション部長
三宅 啓介		医師	脳神経外科長 高次脳機能障害外来診療部長
鈴間 潔		医師	眼科長
星川 広史		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科長 地域医療教育支援センター長
西山 佳宏		医師	放射線診断科長 放射線部長
柴田 徹		医師	放射線治療科長
白神 豪太郎		医師	麻酔・ペインクリニック科長 手術部長 集中治療部長 ME機器管理センター長
永竿 智久		医師	形成外科・美容外科長
羽場 礼次		医師	病理診断科長 病理部長
小松原 悟史		医師	リハビリテーション科長
隈元 謙介		医師	臨床遺伝ゲノム診療科長
三宅 実		医師	歯・顎・口腔外科長
黒田 泰弘		医師	救命救急センター長 臓器組織提供・移植医療支援室長
横井 英人		医師	医療情報部長 診療情報管理室長 臨床研究支援センター長
川西 正彦		医師	脳卒中診療部長
奥山 浩之		医師	外来化学療法室長
小坂 信二		薬剤師	薬剤部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（・無）
- ・ 公表の方法：香川大学ホームページ
(https://www.kagawa-u.ac.jp/somu/kisoku/reiki_taikei/r_taikei_16.html)
- ・ 規程の主な内容
 - ・ 病院規程、病院細則で、科長、医長、中央診療施設の長等人事を病院長が任命すると明記
 - ・ 会計職務権限要項で、附属病院の予算関係決裁者が病院長であることを明記
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長（診療・医療安全担当）：診療・医療安全を担当する。
 - ・ 副病院長（研究担当）：研究を担当する。
 - ・ 副病院長（経営・評価担当）：経営・評価を担当する。
 - ・ 副病院長（教育・地域連携担当）：教育・地域連携・広報を担当する。
 - ・ 副病院長（医療の質管理担当）：医療の質の管理を担当する。
 - ・ 副病院長（総務担当）：総務を担当する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
一般社団法人国立大学協会中国四国支部及び国立大学法人愛媛大学が担当校として、開催に向けて検討・調整された「令和2年度中国・四国地区国立大学法人病院事務マネジメントセミナー」については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況等を鑑み、開催中止となった。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	㊦・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め、又は必要に応じ実地で確認を行う。 2. 学長又は病院長に対し、必要に応じて、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう求める。 3. 上記の業務についての結果を公表する。 <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（㊦・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（㊦・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（㊦・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（㊦・無）</p> <p>・ 公表の方法：香川大学医学部附属病院ホームページ (http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/iryokansa/)</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
太田 吉夫	香川県病院事業管理者	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・㊦	1
植松 浩司	あすか総合法律事務所 弁護士・歯科医		法律に関する識見を有するため	有・㊦	1
二島 多恵	がん患者会ネットワー ク香川 会長		医療を受ける者の代表者	有・㊦	2
真鍋 光輝	香川大学副学長		学長が必要と認めた者	㊦・無	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
 - ・国立大学法人香川大学におけるコンプライアンスの推進に関する規則等を制定
 - ・コンプライアンス推進のための活動方策・更新及び実施
- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法：香川大学ホームページ
(https://www.kagawa-u.ac.jp/compliance_kw/)

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 会議体は、学長、学長が指名する理事及び職員、大学の役員又は職員以外の者で大学に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから、教育研究評議会の意見を聴いて学長が任命する者で構成された、香川大学経営協議会において、「予算の作成及び執行並びに決算に関する事項」や「組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項」等の大学法人の経営に関する重要事項を審議する。 ・ 会議体の実施状況（年5回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（☑・無）（年5回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（☑・無） ・ 公表の方法：香川大学ホームページ (https://www.kagawa-u.ac.jp/public/15525/proceedings_summary/council/#31) 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人香川大学経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
笥 善行	学長	○	☑・無
今井田 克己	理事<教育担当>		☑・無
片岡 郁雄	理事<研究・産官学連携・教員評価担当>		☑・無
嶋倉 剛	理事<企画・評価・附属学校園担当>		☑・無
真鍋 光輝	理事<総務・労務担当>		☑・無
川池 秀文	理事<財務・施設担当>		☑・無
金子 元久	筑波大学特命教授・東京大学名誉教授		有・☑
神余 隆博	関西学院大学国連・外交統括センター長		有・☑
田中 壮一郎	帝京大学 客員教授		有・☑
佐伯 勇人	四国電力(株)取締役会長		有・☑
西原 義一	香川県副知事		有・☑
藤岡 実佐子	帝國製薬(株)代表取締役社長		有・☑
綾田 裕次郎	百十四銀行代表取締役頭取		有・☑

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 周知の方法 : 香川大学ホームページ (https://www.kagawa-u.ac.jp/compliance_kw/)

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☑・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページや、広報誌の発行により、本院の診療機能を広く発信している。</p> <p>医療セミナー「イキイキサヌキ健康塾」を定期的で開催し、その内容をホームページやケーブルテレビで放映するなど、本院が提供している最新医療の情報を地域に発信している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☑・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>救命救急センターと各診療科が連携し、多発外傷、脳卒中、急性冠症候群、心肺停止、重症熱傷等、緊急性の高い重症救急疾患に対する高度な専門的医療を総合的に実施している。</p> <p>手術、放射線、化学療法及び緩和医療の各専門医等からなるがん診療連携協議会を設け、がん患者の症状、状態に応じた最適な治療方針を作成している。</p>	